

F84

版

司法省藏版

大審院民事判決錄

明治十二年九月印行

CZ
2811
1.0

CZ
2114
01

大審院民事判決錄 明治十一年

目錄

作德米未納催促一件	一
家屋敷名前替一件	三九丁
質地受戻一件	七〇丁
地券名請爭論一件	九五丁
耕地養水差故障難澁一件	一三八丁
水理處分取消一件	一五八丁
地所爭論一件	一七一丁
中澤村分地荆藪木爭論一件	一九一丁
公有地并船塲通行道爭論一件	二三九丁
用水譯立一件	二五五丁

- | | |
|-----------------|------|
| 名古屋鎮臺兵營建築增費請求一件 | 三〇二丁 |
| 質地受戻一件 | 三五七丁 |
| 質地請戻一件 | 四〇一丁 |
| 貸金催促一件 | 四三三丁 |
| 船取押難澁一件 | 四四九丁 |
| 地券名受相違一件 | 四七一丁 |
| 雇入給料并諸雜費催促一件 | 五〇〇丁 |

大審院民事判決錄 明治十一年
第九拾壹號

○作德米未納催促上告判文明治九年十一月三十日上告
明治十一年六月一日申渡

新潟縣下越後國蒲原郡
十二道島村平民

原告 西村 嘉平

新潟縣下越後國蒲原郡

湯川村平民

小畑 六三郎

被告

同縣下同國同郡保明新田

平民

右代人

長谷川 策次郎

二 東京上等裁判所ノ審判

原告 西村嘉平控訴ノ要領 明治九年五月十五日

該訴被告小畑六三郎方へ可相渡作德滞米ノ内貢米及ヒ諸掛リ惡作引等ヲ差引尙六三郎方へ相渡シタル米金即チ第一號ヨリ第十一號迄ノ証書ノ分チ差引計算セハ却テ自分方へ可取戻米四拾三石壹斗七升五合九勺(明治九年八月十六日ノ仕譯書ニ依ル)アルチ初審新潟裁判所ニ於テハ何等ノ計算ヲナセシカ米八拾壹石六斗六升壹合九勺自分ヨリ六三郎方へ辨償スヘシトノ裁判ヲナシ且其裁判狀自分陳述ヲ掲ケシ項中ニモ亦八拾壹石六斗六升壹合九勺トアリ右ハ自分陳述セサリシトナレト蓋シ初審裁判所ニ於テ強テ自分ニ摺印セシメシ口書ニ憑リシナラン如此ナルカ故ニ該裁判ニ服スルチ得ス更ニ覆審ヲ乞フコト左ノ如シ

一前條第十一號迄ノ証書ノ内左ノ第一號第四號第八號請取書ニ記載アル金額ハ現ニ被告六三郎代佐藤與三郎(該訴引)ニ相渡シ作德米ノ内へ差入レタルモノニテ既ニ與三郎モ初メハ受取書三通共其筆跡印影皆無相違旨陳述セシカ今ハ之ニ反シ覺無之杯申立ルハ不當ナリ右三通ノ證書ハ左ノ如シ

第一號分

覺

一金百兩也

但德米代金

右之通慥ニ受取申處相違無御座候以上

六右衛門代

明治三年四月

與 右 門 衛 印

嘉 兵 衛 殿

四

第四號分

覺

一金百八拾兩也

但德米代金

右之通借ニ受取申處相違無御座候如件

六右衛門代

明治四未年二月廿一日

嘉兵衛殿

與右衛門印

第八號分

覺

一金四拾兩也

但德米代金

右之通借受取申處相違無御座候以上

六右衛門代

明治五申三月

嘉兵衛殿

與右衛門印

五

右證書ノ内第四號證ノ金員ハ別紙第三號ニアル三田米百俵ヲ被告
 六三郎ニ於テ賣渡シタル手附金貳拾圓ノ殘額ナリ抑此賣渡米トハ
 自分ヨリ被告六三郎ニ可相渡小作米五拾九俵ト引合人佐藤與三郎
 ヨリ同様六三郎ニ可相渡小作米四拾壹俵トナ合セ百俵トナシ六三
 郎ヨリ小須戸町熊吉ナルモノニ賣渡シタルモノナレモ更ニ自分ニ
 於テ酒造米ノ爲メ熊吉ヨリ再ヒ買受ケ則チ六三郎ニ渡セシ手附金
 并口錢トテ自分ヨリ熊吉ニ相渡シ其餘ノ金即チ前顯第四號ノ金百
 八拾圓ヲ被告代人ナリシ與三郎ニ相渡シ且與三郎ヨリ六三郎ニ可
 相渡四拾壹俵ノ米ハ別紙第五號ノ如ク與三郎ヨリ直ニ自分ニ受取
 タリ

六

又左ノ第九號證書ニ記載アル皆朱膳椀ハ金三拾圓ト見積リ六三郎方小作米ノ内へ差入タルモノニテ其文中貸米代金トアレト別ニ借用米アルニアラス然レト既ニ小作滯米アルハ尙借リタルモノ、如キニ付斯ク記載セシモノナリ

第九號分

記

一皆朱膳椀

貳拾八前

但二ノ膳湯桶辨當付

此代金三拾兩ニ圖リ

右者去未之作徳米并貸米代金高之處へ中圖爲引宛儘預申處依テ如件

湯川村

明治五壬申年十二月

小畑六三郎代

與 三 郎印

嘉兵衛殿

又前顯證書ノ外ニ別紙第十號ノ如ク米貳拾六俵_{拾三}ノ受取ト別紙第十一號ノ如ク米三拾七俵_{拾八石}ノ受取書アリ是亦六三郎代與右衛門ト記シ調印セシモノニテ此受取書_{第十號}第ニ記載アル米ハ被告ニ於テモ既ニ入手セシ旨陳述シ居ルナリ而シテ與右衛門トハ即チ引合人與三郎ニテ六右衛門トハ即チ被告六三郎ノコナリ一貢米ハ一个年六石六斗貳升餘ナリ_{明治九年八月十六日}尤明治二年三月中代金貳百圓ニテ六三郎方へ相渡シタル櫛下村抱持地ノ貢米ハ元壹石六斗六升八合七勺ナルヲ明治九年ヨリ八个年前ニ貢米高相増シ壹石八斗貳升三合六勺トナリヌリ依テ六三郎方へ渡セシ

七

八

流地証書ニモ右增高ヲ記載スヘキヲ筆者ノ誤リニテ元高ノ儘ヲ記載セシナリ然レモ實際右增高トナルハ左ノ第十二號書面ニテ明カナリ

第十二號分

証

一當村御高辻ノ内貴殿抱持地石壹石八斗貳升三合六勺村方小須戸入銀分共ニ去ル壬申之際先役ヨリ諸帳記御引渡被成候通貴殿名前ニテ御貢米始諸上納モノ共却テ貴殿ヨリ取立候ニ相違無御座候也

第十九大區小二區

櫛下村戸長

西村嘉一郎

明治八年第十月

同大區同區十二道島村

西村嘉平殿

一口米給米ハ一个年米三斗三升壹合貳勺ツ、ナレモ右ハ確定ノ高ニハ無之唯自分ノ見込マテナリ

一普請足役米ハ一个年四石三斗五合三勺ニテ此分明治二年ヨリ明治四年マテ三个年分

日明治九年八月十六日仕譯書ニ依ル六三郎ノ作徳米ヨリ可差引モノナリ而シテ足役米ハ貢米壹石へ六斗五升ヲ掛ケタルモノニテ

其貢米ハ一个年六石六斗貳升三合六勺ナリ

一惡作引米ハ明治二年ヨリ明治七年迄年々勘辨ヲ受此總計米貳拾

九 九石貳斗四升九合ナリ尤此惡作引ノ米高ニ付別段ノ約定ハ無之唯凶作ノ時地主見分ノ上引方勘辨ヲ受ケシモノナレモ其勘辨ヲ受ケタル惡作引ノ計算ハ右ノ如クニテ相違無之其證跡ハ自分ニ所持セ

ル諸向附込帳ニ判然ナリ然レモ此帳簿ハ他人ノ見閲ヲ以テ分ルヘ
キモノニアラサルナリ
右ノ外明治九年八月十六日差出タル仕譯書ノ如ク萬雜米及ヒ支配
料モ有之ヲ被告ニ於テハ初審裁判所審理中作徳殘米八拾壹石六斗
六升壹合九勺ノ計算書ヲ自分ヘ相示セシ杯申立レモ更ニ其計算書
ヲ見閲セシハ無之旁以實際ノ裁判アラントテ乞フ

被告 小畑六三郎代人牛腸清吉答辨ノ要領

該訴ハ最初新潟裁判所ニ於テ被告小畑六三郎ヨリ原告西村嘉平外
十二名ヘ對シ文久四年以降ノ小作米淹滞ヲ訴出シ處内十二名ハ既
ニ其小作米ヲ嘉平方ヘ相渡置淹滞無之事判然セシニ付初審ニ於テ
嘉平ト熟議ノ上別紙對談書ノ通り明治元年以前ノ分ハ切捨明治二
年ヨリ明治七年迄ノ小作淹滞計算ナスヘキ事ニ取極メ則チ左ノ通

リ仕譯書被告代人ヨリ初審新潟裁判所ヘ差出シタリ

記

一米貳百五拾壹石三斗八升七勺

是ハ西村嘉平外十二名小作未納訴高

内

九拾四石五斗七升六合五勺

是ハ明治二巳年前之
未納米切捨勘辨ノ分

殘米百四拾石四斗七升壹合

内

壹石五斗

拾三石

拾八石五斗

明治三年佐藤八
乙松三人ヨリ受取
明治五年十二月與右衛
門ヨリ受取書差出候分
明治六年酉年小作
人ヨリ受取候分
明治八年十二月四日牛腸清吉ヨリ新潟裁判所
ヘ差出タル仕譯書ニ依ルハ此拾八石五斗ハ與

右衛門ヨリ請取書差
出候分ト明記アリ
明治酉戌兩年分小
作人ヨリ受取候分

小ニ五拾五石五斗

殘米八拾壹石九斗七升壹合

外ニ拾六石三斗九升四合貳勺廻シ米

ニ九拾八石三斗六升五合貳勺

内

金拾貳兩也

明治三午年請取

此米壹石六斗三升七合壹勺

直段壹升ニ付
七百三十三文

以下四筆略ス

小ニ米拾六石七斗三合三勺

此分前口々代金ニテ受取候分引

殘米八拾壹石六斗六升壹合九勺

前書未納米仕譯相違無御座候

新潟縣管下

第十八大區小三區

下條村

牛 鷹 清 吉

明治九年三月七日

新潟裁判所長

六等判事堤正己殿

右仕譯書ノ如ク八拾壹石六斗六升壹合九勺ハ原告ヨリ被告へ可受
取米高ニテ此滯高ノ計算ハ原告ニ於テモ一時承諾セシモノナリ又
原告ニ於テハ明治三年四月附一號證明治四年二月廿一日附四號證
明治五年三月附八號證ノ受取書ナルモノヲ以テ小作米ノ入金ナル

旨陳述スレトモ右ハ被告六三郎ニ於テ落手セシトアラサルノミナラ
ズ右ニ付キ與右衛門即チ與三郎ヲ代人ニ相頼ミタル儀モ無之ニ付
此儀ハ既ニ初審裁判所ニ於テ論辨ノ末前顯三通ノ金員ハ差引ニ不
相立事原告嘉平承諾ノ上則チ左ノ書面ヲ新潟裁判所ヘ差出タリ

第十八大區小三區

下條村

牛一勝 清吉

右ハ小畑六三郎ニ及説諭候處巳年前之未納米ハ引捨勘辨可仕候
得共此度嘉平ヨリ差上候與右衛門代人ノ金子四拾兩百兩百八拾
兩ニ三百貳拾兩ハ與右衛門ヨリ受取不申候ニ付此段奉申上候

右

牛 鴈 清 吉印

明治八年十二月十日

小畑六三郎爪印

西村嘉平爪印

佐藤與三郎爪印

新潟裁判所長

六等判事堤正己殿

然ルニ原告ハ前顯明治四年二月廿一日附ノ書面ニ記載アル金百八
拾圓ハ小須戸町熊吉ヘ賣渡シタル米代金ナル旨云々申立レモ被告
於テハ更ニ心得サルモノナリ尤右熊吉ナルモノハ自分有合セノ
米及ヒ原告ヨリ可受取小作米ト合セ三田米百俵賣渡シノ約束ヲ
ナシ手附金貳拾圓受取シカ當時原告ヨリ故障ナシ破談ニ及ヒ遂
ニ對談ノ上熊吉ヨリ受取シ手附金ハ原告ヨリ熊吉方ヘ相償ヒタル
ヲ以テ右貳拾圓ハ則チ原告ヨリ可受取小作米高ニテ差引相立タル

モノナリ

又原告ニ於テハ明治五年十二月附〔原告第九號證〕皆朱膳椀ヲ小作米ノ引當トシテ被告方ヘ差入タル旨申立レヒ曾テ引合人與三郎申出ニ任セ原告方ヘ所持米貸シ遣シタルコト有之シカ右ハ與三郎ヨリ既ニ返却セリ然ルニ其後與三郎ニ於テ右貸米引當トシテ原告ヨリ皆朱膳椀ヲ預リシ趣ナレヒ被告ニ於テ右皆朱膳椀ニ付テハ別ニ依頼セシモノニアラサル故更ニ關係アラサルナリ尤明治九年八月二十二日對審ノ時右皆朱膳椀ハ明治四年ノ作德滯米及ヒ同年中原告ヘ貸シ渡シタル米五石九斗ノ爲メ引當ニ取置タルモノナレハ右米皆濟セシ上ハ差返スヘキ旨於自分申立タルハ錯誤ニテ陳述セシモノナリ又原告申立ル米貳拾六俵ト三拾七俵ノ二口ハ引合人與三郎ヨリ受取タルニ固ヨリ與三郎ヲ代理トシテ受取シニ非サル故假令受取書

ニハ六右衛門即チ被告六三郎代ト記載アルモ被告ハ此受取書ニハ關係無之ナリ

一 貢米ハ一个年六石四斗六升八合七勺ツ、ニテ明治二年ヨリ明治七年迄ノ惣計ハ三拾八石八斗壹升貳合貳勺ナリ
 一口米給米ハ別紙仕譯書ノ如ク三斗五升壹合貳勺ニテ原告申立ル如ク三斗三升壹合貳勺ニアラス尤萬雜米ハ右仕譯書ニ脱シタルニ原告申立ノ如ク年々三斗ツ、引去ルヘキモノナリ
 一 普請足役米ハ原告申立ノ如ク貢米壹石ヘ六斗五升ヲ掛クルモノナレヒ其貢米ハ壹个年六石六斗貳升三合六勺ナル故足役米ハ年々四石四斗五合三勺宛ニ相當ルナリ
 一 惡作引ノ儀ハ元ヨリ取極メタル約定高ハ無之唯凶年ニ方リ田方ヲ見分シ幾部分カ引遣シ來リシモノナリ

右ノ如クナル所嚮ニ新潟裁判所へ差出タル仕譯書ニ書損モ有之且
今般原告ト熟談ニテ會テ受取タル金九拾圓ノ分ハ金拾圓ニ付玄米
四斗貳升入五俵ノ相場ト相定メタルモノ等有之ニ付更ニ計算ヲ遂
クンハ未納高ハ全ク七拾壹石四斗四合三勺ナリ

引合人 佐藤與三郎代人佐藤祐一郎陳述ノ要領

該訴初審裁判所審問ノ節原告西村嘉平ニ於テ明治三年四月付(原告
號)明治四年二月付(原告第
四號證)明治五年三月付(原告第
八號證)ノ受取書ニ記載ア
ル金員ハ與右衛門事與三郎ニ相渡シ置タル旨申立シニ付與三郎ニ
於テハ實際右金員受取シ事無之且其受取書モ亦差出シタル覺無之
旨辨駁シ尙該受取書一見セシニ印影ノ相違セシノミナラス直筆ニ
モアラサルナリ而テ明治五年十二月付作徳拾三石(原告第
十號證)明治六年
十二月付拾八石五斗(原告第十
一號證)ノ二口ハ小作人ヨリ地主タル被告六

三郎へ舟積ノ節與三郎粹祐一郎ニ於テ受取渡シテナシタレト是亦
請取書等差出タル事ハアラサルナリ

又皆朱膳椀ノ儀ハ被告六三郎代人ヨリ申立ノ如ク六三郎ニ於テ關
係アルヘキニアラス右ハ與三郎ニ於テ原告嘉平ノ爲メ六三郎ヨリ
借り遣シタル米穀ノ引當トシテ金三拾圓ニ見積リ與三郎方へ預ケ
其預リ書ヲ差出シ置タルモノナリ尤其文面ハ原告ヨリ差出ス預リ
書文面ノ如ク覺ユレト今其書面ヲ見ルニ或ハ眞筆ノ所モアリ或ハ
眞筆ノ如クナラサルモノアリ又右證書ヲ差出シタル時ハ調印セサ
リシト覺ユルナリ然ルニ明治九年八月廿二日對審ノ時右皆朱膳椀
ハ證書明文ノ如ク原告嘉平ヨリ被告六三郎へ可差入作徳米ト嘉平
ニ於テ六三郎ヨリ借受ケタル米五石九斗ノ爲メ引當ニナセシモノ
ナル旨與三郎申立置タルハ全ク錯誤ナリ

判文ノ要領

第一條

明治三年四月附明治四年二月附明治五年三月附ノ金合セテ三百貳拾圓并米拾三石ト拾八石五斗ノ儀被告ニ於テ右米二口合三拾壹石五斗ハ受取タレ其請取方ヲ佐藤與三郎ニ委任セシメ非ス右金員ノ如キハ與三郎ヨリ受取シテ及ヒ依托セシメ無之旨答辨シ佐藤與三郎代人祐一郎モ同様申立然シテ與三郎ハ六三郎ノ代人タル憑據之ナク故ニ到底三廉合金三百貳拾圓ハ作德米代金トシテ被告ヘ引渡タルトノ原告申分ハ採用セサル事

第二條

原告ニ於テ明治五年十二月中作德米代金トシテ皆朱膳椀貳拾八前ヲ被告代人佐藤與三郎ニ相渡シタル旨申立ルト雖モ與三郎代祐一郎ニ於テハ作德米代トシテ金若干ニ見積被告ノ代人トシテ受取タル義ニハ無之旨申立ルヲ以テ假令該預リ證書ノ印形等真正ノ物トナスモ被告ヨリ與三郎ヘ受取方ヲ委任セシ憑證無之上ハ原告申分不相立事

第三條

原告ニ於テ小作地ノ貢米ハ六石六斗貳升三合六勺ツ、ノ旨申立ルト雖モ明治二年三月中右小作地ヲ被告ヘ質流地ニナセシ砌ノ流地證文三通ニ記載アル貢米高ヲ合算スレハ六石四斗六升八合七勺ニ相成被告申立ル石高ト符合スルヲ以テ原告申分不相立事

第四條

作德米ノ内ヨリ可引去口米德米高原被申争互ニ貳升ツ、差違有之
 元無證ノ争ヒシテ原告ニ於テハ被告ヘ可相拂義務アリト云ヒ被

告ニ於テハ可受取權利無之ト争フニ過キス到底權利者ニ於テ權利無之旨申立ル上ハ其義務モ隨テ消滅スル道理ナレハ右差違ニ拘ラズ被告申立ノ石高ヲ以テ計算致スヘキ事

第五條

普請足役米ノ義ハ貢米高ノ六割五分ニ相當ル旨原被告申立ルニ付右ニ據テ計算スルハ四石貳斗四合七勺ト相成即被告申立ニ相當スル事

第六條

惡作引米ハ到底原告ニ於テ申立ノ如ク勘辨受ケシ證據無之上ハ原告申分難相立事

第七條

前條々ノ筋合ナルヲ以原告申分一切不相立被告請求スル作徳未納

米七拾壹石四斗四合三勺ハ原告ヨリ速ニ辨濟可致事

但引合人佐藤與三郎ヨリ原告ヘ宛タル證書ノ義ニ付原告ノ陳述與三郎代人佐藤祐一郎陳述ト背違シテ眞否判然タラスト雖モ畢竟該證書ハ原告ヨリ直接ニ被告ヘ係ルヘキ證據ニハ不相立ヲ以
其眞否ハ推糺ニ及ハス
明治九年
十月二日

大審院ニ於テ

原告 西村嘉平上告ノ要旨

第一條

東京上等裁判所判文第一條ニ依レハ證書第一號金百圓第四號金百八拾圓第八號金四拾圓合金三百貳拾圓ハ作徳米トシテ被告ヘ渡セシ證據ニ相成ラサル旨ノ判決ナレトモ其第四號ノ百八拾圓ハ被告六三郎ヨリ米貳斗貳升入百俵小須戸町矢部熊吉ヘ賣渡シ即チ第三號

證書ノ手金貳拾圓ノ殘額ナルヲ東京上等裁判所ハ右ノ手付金ヲノ
 ミ採用シテ受取シモノトナシ夫レニ附帶セシ殘金ナル第四號ノ百
 八拾圓ヲ採用アラサリシハ不當ノ裁判ナリ
 又三百貳拾圓ノ受取證書三通ハ引合人與三郎ニ於テ最初ニハ其證
 書ノ筆蹟調印トモ無相違旨陳述シ初審裁判官ニ於テモ其調印ハ與
 三郎印形ニ相違ナキ旨申聞ラレタレモ六三郎ノ代人タル委任狀ナ
 キノミニテ之カ代人タルヲ採用ナカリキ因テ之レヲ東京上等裁判
 所へ控訴シタルニ同裁判所ハ其筆蹟印影ノ眞否實際ノ奈ンヲ取調
 アラスシテ裁判アリタルハ不法ナリ

第二條

判文同條ニ米三拾壹石五斗ハ其受取方ヲ與三郎へ委任シ直ニ請取
 セタル義ニハ之レナキ旨答辨シ佐藤與三郎代人佐藤祐一郎モ亦同

様申立然シテ與三郎ハ六三郎ノ代人タル憑據之レナク云々トアレモ
 被告六三郎カ當初新潟裁判所へ訴出タルニハ小作米ハ原告ヨリ一
 粒モ受取ラサル趣ニ申立審理ノ上第十號〔貳拾〕第十一號〔三拾〕ノ證書
 アルヲ以テ此兩證ノ米ハ受取旨申立引合人與三郎ハ控訴ノ訟庭
 ニ於テ右ノ米ハ小作人ヨリ引受ケタレトモ原告ヨリ受取シモノニ
 アラサル旨申立レモ原告ヨリ受取可キ作徳米ヲ他人ヨリ受取ヘキ
 理ハアラサルニ東京上等裁判所ハ此等ノ審理ヲ盡サスシテ原告ノ
 供述ヲ採用セサルハ不法ナリ
 又引合人與三郎ヨリ小作米金ノ受取書ヲ取置シハ代人規則ヲ公布
 セラレシ以前ナレハ當今ノ如ク委任狀ハアラサルナリ然ルニ東京
 上等裁判所ハ之レヲ既往ニ溯ラシメ與三郎ハ六三郎ノ代人タル憑
 據之レナシト裁判セシハ不法ナリ

第三條

東京上等裁判所判文第一條ニ與三郎代人祐一郎ニ於テ證書〔第八號〕皆朱膳椀ノ筆記眞否判然ナラス印形モ亦相違ノ様相覺ヘ右ハ與三郎ヨリ被告六三郎ヘ可相渡作德米ヲ原告嘉平ノ頼談ニ依テ被告六三郎ヘ依頼ノ未貸遣シタル節引當トシテ皆朱膳椀與三郎ヘ相預リ其證トシテ無印ノ預リ書相渡置云々假令該預リ證書印形等眞正ノ物トナスモ被告六三郎ヨリ與三郎ヘ受取方ヲ委任セシ憑證之レナキ云々トアノトモ右皆朱膳椀ハ金三拾圓ト見積リ與三郎ノ手ヲ經テ作德米代トナシテ六三郎ヘ相渡シ已ニ初審ノ訟庭ニ於テ六三郎與三郎トモ作德米ノ代リニ受置シ旨供出シ亦控訴ノ裁庭ニ於テモ原告ヘ貸付ケタル米高ヘ引當トシテ受取置シト陳述セシハ明治九年八月二十二日ノ口供ニ判然タリ加之其證書ニモ亦去去年作德米并貸米

トアルヲ東京上等裁判所カ與三郎ニ於テ貸米ノ引當ナリト申立シハ詐偽ノ供述ナルヲ却テ眞正ナリト信用シ其審理ヲ盡サ、ルハ不法ナリ

第四條

東京上等裁判所判文第三條ニ流地證文三通ニ記載アル貢米高ヲ合算スレハ六石四斗六升八合七勺ニ相成云々トアレモ元治元年ハ現石六石四斗六升八合ニ之アリシ處其後ニ至リ貢米ノ内櫛下村分ハ米壹斗五升四合九勺相増〔元壹石六斗六升八合七勺ノ處後〕タルニ付貢米高六石六斗貳升三合六勺ト相成リ然ルニ明治二年三月質地證文書改ル時村役人ノ書損セシモノニ付則第十二號戶長ノ證書ヲ以テ實際増石アリシヲテ證明セシニ東京上等裁判所ニ於テ之レヲ採用ナカリシハ不當ナリ

第五條

東京上等裁判所判文第五條ニ普請足役米ノ儀ハ貢米高ノ六割五分ニ相當ル旨原被申立ルニ付右ニ據テ計算スレハ四石貳斗四合七勺ト相成云々トアレトモ前條ニ陳述セシ如ク楯下村分ノ貢米高相増シタルカ故ニ普請足役米ニ差違ヲ生スルハ必然ノ理ナリ然ルチ東京上等裁判所ハ是等ノ審理ヲ盡サスシテ裁判アリシハ不當ナリ

第六條

東京上等裁判所判文第六條ニ六今年ニテ貳十九石貳斗四升九合ノ惡作引米勘辨請タル旨申立被告ニ於テハ勘辨致シ遣シタル高ハ六今年分ニテ都合貳十五石七斗壹合ニ相成其餘ハ勘辨セシテ無之旨相答到底原告ニ於テ申立ノ如ク勘辨請シ證據無之云々トアレトモ惡作引ノ儀ハ六三郎始メ同人親類及ヒ與三郎小作人一同立合何割引

ト取極メ小作水入帳ニ記載シタルモノナルニ付六三郎ヨリ差出ス處ノ仕譯書ト違ヒヲ生シタル上ハ小作人一同呼出ノ上審理アリ度旨明治九年八月廿五日東京上等裁判所ニ書面差出セシニ其審理ハアラスシテ唯被告六三郎ヨリ差出シタル相違ノ仕譯書ニ依リ裁判アリシハ不法ナリ

明治九年五月十五日東京上等裁判所ニ控訴イダシ明治九年十月二日裁判セラレシ處不服ニ付明治九年十一月三十日上告致シ該訴ニ掲載セシ証書十一通明治十年一月十四日遺失致シ其段警視分署ニ届置シナレ共今以テ見當ラサルナリ

被告 小畑六三郎代人小畑寅吉答辨ノ要旨

第一條

筆蹟印影ノ實際取調アラスシテ裁判アリシハ不法ナリト申立ルト

雖モ民法裁判上ニ於テ筆蹟印形ノ眞偽ヲ吟味スルノ理ナシ故ニ其
 証書ノ如キハ與三郎ニ對シ別段訟訴ニ及フモ又ハ其筋ニ吟味ヲ願
 出ルトモ勝手次第ノ儀ニテ六三郎ニ對シ作德米未納ノ濟方ニハ關
 係無之云々ト申渡サレタルハ不法ノ裁判ニ非ス又第三号証書ノ金
 貳拾圓ハ六三郎カ熊吉ニ渡シタル米代ノ手金ナリ而シテ其米ハ熊
 吉ヨリ更ニ原告嘉平ニ賣渡セシカ代金不相濟ニヨリ破談ニ成レリ
 然シテ六三郎ヨリ嘉平外十二人ニ係リ作德米未納催促ノ出訴ニ及
 ヒシニ熊吉ヨリ請取タル手付金貳拾圓ハ元嘉平ノ出金ナルカ故ニ
 作德米ノ差引ニ立ントノ望ミニ任セ其差引ハ承諾シタルトモ百八
 拾圓ハ嘉平ヨリ六三郎ニ直接ニ渡シタルトノコトニアラスシテ與三
 郎ニ渡シタルトノコトナリ然ルニ其與三郎ハ曾テ受取タルコトナシト
 申立タリ故ニ六三郎ニ於テハ之ヲ受取ル可キ筈之レナシ況ヤ嘉平

ノ所持セル右ノ証書ハ與三郎ノ實印直筆ニ無之トノ義ハ當初ヨリ
 陳述シ且明治八年十二月十日牛腸清吉以下原被連署ヲ以テ新潟裁
 判所ニ差出シタル書面ヲ以テモ受取書三通ノ金高三百廿圓ハ六三
 郎方ニ請取シコトナキヲ嘉平ニ於テ已ニ承諾シタリ右ノ次第ニ付合
 計三百貳拾圓ヲ作德米代金トシテ六三郎ニ相渡シタルトノ原告嘉
 平カ申立ヲ採用アラサリシハ至當ノ裁判ナリ

第二條

三拾壹石五斗ノ米額ハ嘉平ヨリ請取可キ作德米ニ無之矢部彌平治
 外十一名ヨリ請取可キ作德米ナリ故ニ六三郎ハ之レヲ彌平治等ヨ
 リ直接ニ受取タリ左スレハ與三郎カ六右衛門〔六三郎〕代人ノ名義ヲ
 以テ原告嘉平ニ請取書ヲ渡ス可キ謂レ之レナシ然レハ假令與三郎
 カ六三郎代人ト記シタル請取書ヲ差出セシモ六三郎ノ與リ知ル處

ニ非ス況ヤ與三郎ニ於テモ右等ノ請取書ヲ嘉平ニ附與セシテ曾テ之レナク且其請取書ハ與三郎ノ直筆實印ニ非サル旨陳述セシニ於テチヤサスレハ獨リ原告カ之ヲ六三郎ノ代人ナリト主張スルト雖モ其代人タル憑據ナキヲ以テ採用ナカリシハ至當ノ裁判ナリ又東京上等裁判所ハ委任狀無キノミニ因テ都合四通ノ証書ヲ採用相成ラサリシ儀ニハ之レナク然ルチ代人規則公布ノ前後ヲ論シ以テ終審ノ裁判ヲ破毀セシヲ乞フハ不當ナリ

第三條

皆朱膳椀預リ書ノ儀ニ付原告嘉平ト與三郎ノ間ニ如何ナル契約アリトモ六三郎ハ之レニ干預セス如何トナレハ與三郎ヨリ六三郎方ニ納ム可キ作徳米ヲ以嘉平ニ貸與ヘシヲ與三郎ヨリ頼談ニヨリ承諾シタレトモ其後嘉平返米セサル趣ヲ以與三郎ヨリ返濟ヲ請シ

上ハ嘉平作徳米未納ニ毫モ關係セサルナリ

第四條

質流地證文面ニ記載ノ高ニ比スレハ實際增高アリシ趣ナレトモ増石ノ儀六三郎ニ於テ承諾ノ上ハ格別ナレトモ左ニアラサレハ流地證文面ニ記載ノ高ヲ以合算セラレシハ至當ノ裁判ナリ

第五條

普請足役米ノ儀モ第四條ニ陳述セシト同事理ニシテ流地證文面ノ高ヲ合算シテ之レニ六割五分ヲ掛レハ四石貳斗四合七勺ト成ル依テ至當ノ裁判ナリ

第六條

惡作引取捨ニ於テハ地主ノ權内ニテ凶作ノ年柄ハ定約ノ通取立ルハ憫然ニ付厚情ヲ以テ勘辨致ス迄ノモノニテ何ソ親類及ヒ與三郎

小作人等ノ立會ヲ要セシヤ加フルニ其勘辨ヲ請タルトノ憑據ナキ
ヲ以テ原告ノ申分採用アラザリシハ至當ノ裁判ナリ然ルニ原告ハ
他ノ田畑ヲ小作致シ漸ク當日ノ糊口ヲ爲ス小作人共ヲ百里外迄モ
呼出シテ願立ル段心得難シ

被告 小畑六三郎代人長谷川策次郎陳述ノ要旨

一原告提供スル證書第十號米貳拾六俵第十一號同三十七俵ハ原告
嘉平ヨリ直ニ受取タリト一旦申述セシハ誤リニテ實ハ嘉平ヲ除キ
外拾貳名ノ小作人ヨリ受取シナリ
一前條貳拾六俵^{十三石}三十七俵^{十八石}ハ新潟裁判所ニ於テノ仕譯書
ニ與右衛門ヨリ受取書差出候分引ト記載セシハ其實右米ハ前條ノ
順序ヲ以受取シニ付此分ハ嘉平カ與右衛門ヨリ請取書取置ケリト
申立シ分ト云ル意ヲ以認メタルモノナリ

一皆朱膳梶引當嘉平へ貸附タル米ハ元來與三郎ヨリ六三郎へ可納
米ニテ與三郎ニ於テ此米ヲ嘉平へ貸附テモ苦シカラスヤト談判ア
ルニ付六三郎ニ於テハ其米ヲ與三郎ニ對シ貸シ遣シ與三郎ハ更ニ
嘉平ニ貸與ヘタルモノナレハ與三郎ト嘉平トノ貸借ニ六三郎ハ關
係セサルナリ

一貢米ハ嘉平ヲ代理トシテ納メサセタリ尤嘉平ハ同人及ヒ外拾貳
人ノ小作地ヲ六三郎ノ爲メニ差配致セシモノナリ
本訴ノ主点ハ左ノ條件ナリトス

第一 六右衛門代與右衛門ト記シタル徳米代金合計金三百貳拾
圓ノ請取書及ヒ皆朱膳梶ノ預リ書都合四通ノ証書ハ嘉平ヨリ六
右衛門へ對シ效力ノ有無ノ事

第二 質流地証書ニ記シタル貢納高ト榎下村戸長カ保証スル貢

納高ト壹斗五升四合九勺ノ差違アルハ何レニ據ルヲ相當ト爲ス
ヘキヤノ事

辨明

第一條

東京上等裁判所ニ於テハ被告六三郎代理人牛腸清吉引合人與三郎
代同人倅祐一郎ノ答辨ニ依リ四通ノ証書ハ嘉平ヨリ六三郎ニ對シ
テハ作徳米代金トシテ渡シタルノ效ナキモノト判決シタリ然ルニ
引合人與三郎代同人倅祐一郎カ東京上等裁判所へ差出シタル明治
九年九月二十二日ト明治九年九月二十七日トノ始末書ニ依ルニ拾
三石拾八石五斗ノ二タロハ小作人ヨリ地主タル被告六三郎へ舟積
ノ節與三郎倅祐一郎ニ於テ請取渡シテ爲シタルトモ是亦請取書等
差出シタル事無之トアリ

被告六三郎代理人牛腸清吉カ新潟裁判所へ差出シタル明治八年十
二月四日付ノ仕譯書ニ

拾八石五斗〔三拾七俵〕與右衛門ヨリ請取書差出候分トアリ

被告六三郎代理人牛腸清吉ヨリ新潟裁判所へ差出シタル明治九年
三月七日付ノ仕譯書ニ

拾三石〔貳拾六俵〕明治五年壬申十二月與右衛門ヨリ受取書差出候分トア
リ

六三郎ノ代理人ト與三郎ノ代人トノ申立一定セサル事斯ノ如シ
又本院ニ於テ被告六三郎代人長谷川策次郎カ陳述ニ

貳拾六俵〔拾三石〕三拾七俵〔拾八石〕ハ新潟裁判所ニ於テノ仕譯書中

ニ與右衛門ヨリ受取書差出候分ト記載セシハ嘉平カ與右衛門
ヨリ受取書取置ケリト申立候分ト云フ意ニテ認メタリトアリ

右ノ辨解ニテハ仕譯書ニ記載スル處ノ與右衛門事與三郎カ六右衛
 事六三郎ニ代リ受取書ヲ出セシヲ六三郎ノ認許セシ證據ヲ取消
 スヲ得サルモノトス然レハ六三郎ハ小作米一件ニ付會テ與三郎
 ニ代理セシメタルヲアリシニ特ニ三百貳拾圓ノ請取書三通ト膳椀
 預リ書トニ限リ與三郎ノ書面ニ拒障ヲ述フルハ其理由ヲ審問セサル
 可ラサルヲナリトス如此場合ニ於テハ代人ノ口上ノミヲ以テ判決
 スヘキ筋ニ非ス各本人ニ對シ審問ヲ遂ケタル上ニ非レハ判決スル
 ヲ得サル筋ナルニ東京上等裁判所ニ於テハ各本人ナル六三郎與
 三郎等ヲ審問セスシテ代人ノ申立ニ據リ判決シタルハ未ダ審理ヲ
 盡サ、ルモノトス

第二條

嘉平カ證據トスル櫛下村戸長ノ書面ヲ以テハ何年度ヨリ貢納高増

加セシヤ分明ナラスト雖モ現ニ嘉平カ貢納セシ貢納高ハ質流地證
 書ニ記スル貢納高ニ超過スルモノ、如シ果ノ然ラハ嘉平ヨリ六三
 郎へ可納作徳米ノ高ニ差響キヲ生スル理ナルヲ東京上等裁判所ニ
 於テハ右ノ審理ヲ爲サス偏ニ質流地證文而已ニ據リ判決セシハ不
 備ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ
 六三郎與三郎ヲ審問セシ上判決ニ及フヘキモノナリ

第九拾貳號

○家屋敷名前替一件上告ノ判文明治九年十二月十一日上告
 明治十一年六月八日申渡

東京第二大區三小區宇

田川町二十三番地平民

原告

市岡平兵衛

東京第一大區十四小區
小網町四丁目九番地熊
本縣士族

右代人

八木善十郎

陸中國磐井郡一ノ關村
住岩手縣士族

被告

岡崎寬司

東京第二大區二小區南
佐久間町二丁目二番地
寄留同縣士族

右代人

伊藤虎臣

東京上等裁判所ノ審判

原告 市岡平兵衛代人八木善十郎控訴ノ要領 明治九年六月九日

該訴ノ地所建家タルヤ田村家ノ買得タルモノナレトモ明治四未年ニ至リ原告ノ名前ニ書換ユルニ田村家ハ華族タルヲ以直宛ニナスモ不敬ナリトシ田村從五位内岡崎寬司へ宛又田村家ヨリハ原告宛ニシテ左ノ証書取換セタリ

一札ノ事

去ル文久元酉年五月中深川佐賀町ニテ三十三番ノ地面買引請表店ヨリ勝手迄間口四間半奥行七間二階家ニテ雪隠小庭付疊建具造作不殘文庫藏二間ニ二間半二階付物置二間ニ二間半貸長屋一棟長サ拾間巾二間四竈井戸一个所外雪隠一个所川岸土藏七間ニ三間半阿州住居安兵衛店支配人紋助ヨリ買求候處屋敷差支ノ筋

有之候ニ付南茅場町石橋彌兵衛名前ヲ以テ沽券狀取引致置候處
退年同店不如意ニ相成同人名前ニ致置候テハ差支ノ儀有之貴殿
名前ヲ以テ今般沽券狀取引萬端行届忝存候依テ沽券狀本紙ハ相
止置別紙寫兩通差出置候間就此地所候儀ハ凡テ御引請御世話被
下度致御頼候爲後証依一札如件

田村從五位内

明治四未年八月廿三日

岡崎寬司印

市岡平兵衛殿

証

一深川佐賀町抱地

沽券狀二通

右之通正ニ取納申候也

辛未

十二月朔日

田村崇顯家令

西田海輔印

市岡平兵衛殿

其以降ハ地所建家ヨリ生スル利益ヲ以原告ニ於テ家稅地租相納メ
其殘金ハ田村家會計掛リヘ納タリ然ルニ地券發行ニ際シ明治五年
七月十四日田村家隱居邦榮カ前顯ノ家屋敷ヲ原告ヘ授與セシナリ
其所以ハ則原告累代田村家ノ用達ニテ維新ノ際ヨリ廢藩後ニ至ル
迄田村家カ爲ニ非常ノ盡力ヲナシ且賣掛ケ金滯モ之レアル廉ヲ以
其謝儀トシテ授與セルヲ以テ新地券ヲ原告ノ名前ニ書換タリ其節
地券受取ル可キ筈ノ處過分ノ授與物ナルカ故返禮ノ次第如何ト思
慮シ右地券ヲ同家ノ家令佐藤時教ニ預ケ置左ノ請取書ヲ取置キタ
リ

証

一 深川佐賀町

地券一通

右書替之上持參被致正ニ受取置候也

田村從五位家令

壬申七月

佐藤時教印

市岡平兵衛殿

前條ノ順序ニ從ヒ明治五申年以來原告於テ右家屋敷ヲ所德ニ成セ
 シモ取換セ証書ヲ取戻サ、リシヨリ夫レヲ以岡崎寛司カ原告へ係
 リ家屋敷名前書替ノ儀東京裁判所へ出訴ニ及ヒ審問上原告〔初審ノ
 申立相立サルトノ儀ナレト兼テ家令カ請取書モアノハ則引合人喚
 問アリ度旨ヲ願ヒシナリ又西田海輔ヨリ左ノ書面ヲ差出シタル處
 過ル六日附ケ御紙面到來打絶御不音致候處彌御壯健珍重ノ御事

ニ御座候借深川佐賀町地所ノ儀御問合ノ趣致承知右ハ内實田村
 家ノ所有ニテ表向貴殿ニ御頼ノ事ニ心得居候ニ付貴所名前ノ沽
 券書田村家ニ被指出候節家令職務中役場ニテ受取書差出候儀相
 違無之尤岡崎寛司ヨリ私有地ノ譯ヲ以テ依頼相受候等ノ儀毛頭
 覺無之候間御疑念有之間敷候御合迄如斯ニ御座候也

亥十一月十一日

西田海助印

市岡平兵衛殿

一ノ關へ掛合相成リタレト終ニ訴外ノ事ナリトシテ之ヲ採用ナカ
 リキ將タ西田海輔佐藤時教ヨリ一ノ關へ差出セシ答辨書ヲ提供セ
 シモ

磐井縣西田海輔及ヒ佐藤時教ヨリ答辨ノ寫

去ル辛未九月中田村崇顯家族東京移住ノ節一同罷登候處磐井縣

士族岡崎寛司舊一關縣勤務東京出張罷在同年十一月中深川佐賀町三十三番地所沽券狀其外諸書附類田村家へ持參當時右ノ地所面代市岡平兵衛へ相托置別紙預リ証ノ通ニ候得共實田村家所有地ニ付書附類共引度可申旨長官ヨリ指圖ヲ受相渡候趣ニテ受取候以來家稅取扱市岡平兵衛ヨリ指出候分田村家金高元立帳ニ書記仕置後役佐藤時教へ右ノ沽券書類一同遜渡翌申ノ七月歸縣致候迄右家實田村家ニテ自由致居候一儀ニ付聊カ岡崎ヨリ不審ノ談判等モ無之其以來不勘定ノ品々ノミ訴出候ハ何様ノ行違ヨリ事起リ候哉意外ノ事共ニ奉存候尤沽券狀御書替御下渡市岡平兵衛ヨリ田村家へ差出候節家令勤役中受書相渡候儀ハ全ク前書之通内實同家之地所ニ付受取差出候儀紛レ無御座候右地所始末御尋ニ付先年家令勤務中之心得詳細奉上申候以上

西田海輔

磐井縣權令兼五等判事

增田繁幸殿

東京府下第二大區三小區宇田川町二十二番地商市岡平兵衛面代深川佐賀町三十三番地々所沽券書受取候始末御尋ニ付左ニ奉申上候

私儀田村崇顯ヨリ被相雇去ル壬申年西田海輔へ交代罷登候節同家抱地深川佐賀町三十三番地沽券書並諸書附類遜受置候處同年七月中右沽券狀御書替御下渡相成候趣ヲ以市岡平兵衛ヨリ差出候ニ付右受取証トシテ書附相渡候儀相違無御座且家稅金取立平兵衛ヨリ差出候分同家金方元立帳ニ記載仕置候筈ニ有之跡交代本間百ト申者ニ沽券書類引渡候節ハ家從野村貞ト申者立合心得

居候筈ニテ右ハ全ク同家抱地故取納置候沽券書ノ儀ニ御座候得
ハ同家ニ在之儀ト奉存候處何様ノ行違ニテ於同家關係之筋無御
座趣申立候儀ニ可有御座哉甚不吞込ノ筋ト奉存候御尋ニ付先年
勤務中ノ始末合心得詳細奉上申候以上

一月十日

佐藤時教

磐井縣權令兼五等判事

増田繁幸殿

又採用アラサル故不服ナレト已ムヲ得ス口供ニ調印ハナシタリ元
來該地券田村家戸主崇顯ヨリ貰受スシテ隱居邦榮ヨリ貰受シハ邦
榮ハ崇顯カ兄ニテ崇顯幼年ナルヲ以家事万端邦榮擔任セシガ故邦
榮ヨリ貰受シナリ之ヲシテ若シ田村家ヨリ出訴ストモ實際審聽ノ
上判決アルヘキ筈ナルニ横合ナル岡崎寛司カ出訴セシヲ子細ニ吟

味アラステ裁判セラレシハ不服ナリ

一該家屋敷ハ崇顯ノ所有ナルカ邦榮ノ所有ナルカ當時原告カ判然
認メシニハアラサレト田村家ノ所有ナル事ハ明治四年ノ頃現ニ其
家屋敷ヲ抵當ニ原告ヨリ藩用金ヲ差出セシ事アレハ邦榮ヨリ貰ヒ
受シモ則田村家ヨリ讓リ受メル効アルモノトナスナリ

一該家屋敷ハ崇顯カ邦榮ノ實弟ニシテ其家督ヲ讓リ受タルヲ以仮
ニ崇顯カ所有ト看做スモ其刻同人ハ幼年ニシテ該件ノ事情辨知ス
ル能ハス故ニ之ヲ執理スルハ則家令カ職務タリ又隱居邦榮ノ内情
ニアルヘシ果シテ然ラハ西田海輔カ擔任タルハ論ヲ俟サルナリ然
ルヲ本問百ニ於テハ該件ニ嘗テ關セサリシニ突然寛司ノ所有杯ト
証明スル理由何等ノ点ニ之アルヤ加之田村家授與セシ云々ハ隱居
邦榮ヨリト供述セシテ往事ヲ辨知セズ崇顯代兼ヲ以頻ト寛司カ所

有ト主張シ却テ前家令兩人ノ真正ナル証跡ヲ取消シ剩ヘ海輔等ノ答辨主意ニ背反セシハ所謂故造ニ出シモ知ルヘカラス將タ田村家ヨリ寄托ヲ受シ時ニ當リテハ實際上ノ順序ニ於テモ判然タリ故ニ取戻サ、ル辛未八月廿三日附ノ証書ヲ以若シ田村家ヨリ請求スルハ訴外ニアツテ格別ナリト雖モ有名無實ノ寬司ヘ對シ名前書替ヘ難キハ勿論ナレハ則初審ノ判決第一條ヲ不服トスル處ナリ

一初審ノ判文第二條ニ崇顯ヨリ貰受タル証據無之ニ依リ採用難相成旨被申渡タリ然レ田村家ヨリ授與セラレタルハコソ地券原告カ名前ナリシハ勿論貢租諸役等續々相勤メタリ若之レナシテ寄托セラレタルモノトセハ物權ヲ有スル寬司ニシテ又其租稅等ノ義務勤ムヘシ十八號ノ公布ニ依テ其權衡ヲ考ルニ貢租諸役ノ義務ヲ盡カ、ルキハ其權利ヲ失ス素ヨリ田村家ヨリ授與セラレタルモノナ

レハ租稅等百事ノ義務原告ニ於テ盡セシナレハ是其授與セラレタルノ明証ナリ

一地所家作ヲ授與セラレタルハ隱居邦榮ト上申セシテ崇顯ト判文ニ掲載之レアリ又誤謬ノ口書其儘書載ニ相成リタルハ何等ノ譯ニ之レアルヤ是レ原告カ幾許カ該件ノ權利ヲ失シタルト云サルヲ得サルナリ依テ控訴シ明裁ヲ請フ

判文

家屋敷持主名前替ノ一件東京裁判所ノ裁判不服ノ趣ヲ以テ及控訴ニ付審理判決スル左ノ如シ

原告ニ於テ華族田村崇顯ノ買入タル深川佐賀町三十三番地々所建家共田村家ノ依頼ニ任セ原告名前ニ致シ其旨明治四年八月二十三

日田村從五位内岡崎寬司ト証書爲取替沽券狀ハ田村家ニテ所持相

成爾來右地所健家ヨリ生スル利益金ハ公私ノ費用ヲ差引殘益金田村家へ相納メ然ルニ原告ハ積年田村家ノ用達ニテ賣掛代金ノ滯リ有之且先年田村家再興ノ際盡力ノ巧モ有之明治五年七月地券發行之際右地所建家共田村崇顯隱居田村邦榮ヨリ原告へ貰ヒ請地券ハ原告名前ニテ受取タレハ過分ナル事ニ思慮シ返禮ノ勘考モアレハ右地券ハ其儘田村家へ相預ケ受取証書取置其以來貢租諸役ハ原告ニテ相勤地所建家ヨリ生スル利益金ハ原告所得ニ致タル儀ニテ原告ノ讓受タルヲ判然タリ元來右家屋敷ハ田村家ノ所有ニシテ原告ノ貰ヒ受タルモノナルコ岡崎寛司ヨリ其所有ナリトシテ名前書替ヲ請求スル謂レ無之旨申立ルト雖モ原告名前ノ地券ヲ田村家へ預ケタル受取証書ト云モノヲ閱スルニ地券書換ノ上持參被致正ニ受取置候トノニ記載有之明治四年ノ爲取換証書及ヒ地券狀受取書ト

相參照スレハ兼テ名前テ假與セル沽券狀ヲ地券發行ニ付書換タルヲ知ルヘシト雖モ讓與セル地券ヲ領知シタル趣ニハ不相見且ツ當時田村家ノ戸主ハ崇顯ナルニ隱居邦榮ヨリ附與セラレタリト云モ証據ナケレハ採用シ難シ又貢租ヲ勤メタル趣ヲ主張スレトモ右明治四年ノ爲取換証書ニ因レハ原告名前ヲ以テ相納タルハ當然ナリ之ヲ要スルニ明治四年ノ爲取換証書ヲ取戻サス且別ニ田村家ヨリ附與ノ確証ナケレハ原告ノ讓受タルモノト認ムヘキ憑據ナシ然ルニ田村崇顯ニ於テ右家屋敷ハ其實明治四年ノ爲取替証書へ記名有之岡崎寛司ノ所有ナリト明言スル上ハ右岡崎寛司ヨリ該証書ヲ以テ名前書替ヲ請求スルヲ原告ニ於テ之ヲ抗拒スルノ權利ナキモノトス依テ訴狀却下候條初審裁判ノ通り可相心得候事
明治九年十月十一日
大審院ニ於テ

原告 代人八木善十郎上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ判文ニ原告名前ノ地券ヲ田村家へ預ケタル受取証書ト云フモノヲ閱スルニ云々兼テ名前ヲ假與セル沽券狀ヲ地券發行ニ付書換タル事知ルヘシト雖モ讓與セル地券ヲ領置シタル趣ニハ不相見且當時田村家ノ戸主ハ崇顯ナルニ隱居邦榮ヨリ附與セラレタリト云モ証據ナケレハ採用シ難シトアレト該地面家作ハ明治五年壬申七月十四日隱居邦榮ヨリ特殊ノ譯ヲ以テ慥ニ賞ヒ受ケ同年同月下旬沽券狀ヲ改正シ地券面自分名義ナルカ上ニ貢租諸税モ自ラ之ヲ納メ原告ノ所有ニ爲シタルハ明瞭ナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ審問ノ際別段賞受ケタル証書ハ無之下雖モ地券改正以來ハ証據ノ判然タルモノナリト申立置キタリ然ルニ証據ナシト判

決セラレシハ不法ナリ

第二條

同判文ニ明治四年爲取換証書ヲ取戻サス云々トアレト右証書ハ文久元酉五月從五位田村邦榮ノ買入タル地面家作ヲ明治四年八月廿三日同家ノ依頼ニ由テ自分名前ニ致シ其旨ヲ認メ從五位直當ヲ憚リ習慣ニ依リ取次ノ心得ヲ以テ田村從五位様御内岡崎寛司様トシテ差入置タルナリ然ルニ明治五年壬申七月地券發行ノ際第一條ニ具陳スル如ク改正シタル上ハ該証書ハ無論反古タルモノニ付取戻モ不致候處豈圖テ明治八年九月右証書ヲ以テ寛司ノ所有ト唱へ出訴致シ其事實ヲ辨セサル本間百引會ノ爲メ終ニ自分主張スル田村家ノ所有ヲリシ事ハ烏有ニ屬シ却テ反古タル爲取替証書ヲ有効ノモノト看做サレタレト會テ該件擔當ノ田村家前家令西田海輔佐

藤時教兩人ヨリ田村家ノ所有ナリト証明セルニ因リ該證書ハ反古タルヘキ事瞭然タリ

第三條

同判文ニ田村崇顯ニ於テ右家屋敷ハ其實明治四年ノ爲取換證書ヘ記名有之岡崎寛司ノ所有ナリト明言スル上ハ右岡崎寛司ヨリ該證書ヲ以テ名前書替ヲ請求スルヲ原告ニ於テ之ヲ抗拒スルノ權利ナキモノトスト有之ト雖モ明治四年八月該地面家作ヲ原告ニ預カルキハ田村崇顯ハ幼年ニシテ家務ヲ辨知スル能ハス故ニ其家事ヲ左右スルハ隱居邦榮ニシテ万般ノ取扱ヲ爲スモノハ當時ノ家令西田海輔及ヒ佐藤時教ナリ然ルニ東京裁判所ニ於テ該件始末審問ノ際右兩人ヨリ明治九年一月十日附去以テ差出シタル書面ニ該地面家作ハ素ヨリ田村家ノ所有ナルヲ以テ家稅取立等取扱市岡平兵衛ヨ

リ差出候分ハ田村家金方元立帳ニ記載シ置キタリト有之岡崎寛司ノ所有ニアラサルハ判然タリ然ルヲ東京上等裁判所ニ於テハ右兩人ノ書面ヲ掲ケラレス只本間百カ東京裁判所ニ差出シタル一己曖昧ノ左ノ書面ニ據リ

引合人 本間百カ東京裁判所ヘ提供セシ書面ノ寫
以書面奉申上候

一 磐井縣士族岡崎寛司代言人山下知行ヨリ府下第二大區三小區
宇田川町廿二番地市岡平兵衛ヘ相懸ル事件ニ付御尋ノ廉左ニ奉
陳述候

一 市岡平兵衛ヨリ岡崎寛司ヘ差入置候地所預リ證書先年一閱仕
候

右證書肩書ニ田村從五位内ト記載有之候得共岡崎寛司ハ舊家來

ニ有之且右証書取引之節ハ同人儀一ノ關係少屬勤務中出京仕居當時私邸内ニ居住罷在候ヨリ右様記載仕候カト被存候而レモ右地所建家ノ儀私ニ於テ更ニ關係無御座候一地券証書一通私へ預ケ候様市岡平兵衛ヨリ申立候得共預リ置候儀決而無之候右之通リ相違不申上候以上

第二大區二小區南佐久間

町二丁目二番地田村崇顯

家令

明治八年十一月廿八日

本 間 百

東京裁判所長

松岡六等判事殿

以書面奉上申候

磐井縣士族岡崎寬司代官人山下知行ヨリ府下第二大區三小區宇田川町廿二番地市岡平兵衛ヨリ相懸ル深川佐賀町二丁目六番地同所并建家共名前書換催促之訴訟ニ付關係有無御尋問之廉々去ル十一月廿八日奉上申候通リ地所建家之儀ニ付田村家ニ於テ更ニ關係無御座候間此段御届ケ申上候以上

第二大區二小區南佐久間

町二丁目二番地

華族

從五位田村崇顯家令

明治八年十二月十二日

本 間 百

右之通リ相違無之候也

田村崇顯ヨリ云々ト判決セラレシハ何ノ謂ナルヲ知ラス何トナレハ西田海輔佐藤時教ニ於テハ田村家ノ所有タルヲ知テ岡崎寛司ノ所有タル事ヲ知ラスト証言シ本間百ハ岡崎寛司ノ所有ニシテ田村家ニ關係ナシト云ヘリ若シ本間百ハ目今田村家ノ家令ナリ代人ナリ其言フ所ハ田村崇顯ノ言フ所ナリトセハ西田海輔佐藤時教モ亦當時田村家ノ家令ナリ代人ナリ其言フ所ハ同ク田村崇顯ノ言フ所ナリト云ハサル可ラス然ラハ則田村崇顯ハ前後兩様ノ言ヲ爲スモノナリ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ右等ノ事由ヲ辨明セラレズ曖昧模糊ノ審理ヲ以テ直チニ岡崎寛司ノ所有トセラレシハ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス

第四條

前條々ニ陳述スル如ク該地面家作ハ元來田村家ノ所有ナリシヲ第

一條ノ如ク原告へ貰ヒ受ケ明治五年七月以來原告ノ所有ト相成リタル事ハ地券面ニ於テ判然タリ因テ田村家ヨリ特別ノ示談トアレハ格別ナリト雖モ曾テ所有ノ權ナキ爲取替証書ノ取次タル岡崎寛司ノ求メニ應シ地券名前ヲ書改ムルノ理由無之ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレ更ニ公正ノ裁判アラントテ乞フ

被告 岡崎寛司代人伊藤虎臣答辨ノ要領

第一條

地券面自分名義ナルカ上ニ貢租諸稅等モ自ラ之ヲ納メ云々原告ヨリ申立レモ明治四年八月中地所名代人石橋彌兵衛儀身代向不如意ニ相成シヨリ其名代ヲ解除シ更ニ原告へ委頼ノ上地所々有者ト假ニ相定メタルヲ以テ地券面原告ノ名義ト相成居レモ其實被告ノ所有タルヤ左ノ証書ニテ判然タリ

町屋敷御預申一札之事

去ル文久元年深川佐賀町三十三番地所御買求南茅場町石橋彌兵衛名前ヲ以沽券狀御取引相成居候所同家退年不如意ニ相成同人名前ニテ御差置候テハ御差支ニ候間今般拙者名前ヲ以沽券取引相濟本紙者其御許へ被相止別紙寫ニ通被相添品々御頼ノ趣奉承知候右御引請地面表店ヨリ勝手迄間口四間半奥行七間二階家ニテ雪隠小庭付疊建具造作不殘文庫藏二間ニ二間半二階付物置二間ニ二間半貸長屋壹棟長サ拾間巾二間ニテ四竈井戸壹个所惣雪隠壹个所川岸土藏七間半三間半之處儘ニ御預仕是迄ノ地守作左衛門相付置不何事寄御不都合無之様可取計候尤退テ沽券名前等御取替ニ相成候節ハ御存意次第可被成其節聊異亂無御座候爲後日依之一札如件

芝宇田川町

廿二番地

明治四辛未年

八月廿三日

市岡平兵衛印

田村從五位様御内

岡崎寛司様

又貢租諸稅等ハ地所建家ヨリ入額ノ金員ニテ上納シ剩餘ハ被告へ受領シ來リタレハ原告ノ所有金ヲ以テ貢租諸稅ヲ納メタルニ非ス又地券面原告ノ名義ナレハ原告ノ名義ニテ之ヲ納ムルハ當然ノ事ニシテ寛司ノ名義ニテ之ヲ納ムルヲ得ヘカラサルハ言テ費サスシテ明カナリ然ルニ地券面原告ノ名義ナルカ上ニ云々被告ハ之ヲ納メサルヲ以テ田村家ヨリ貰受タル云々申述スレト元來田村家ノ所有ニアラサル物件ヲ同家ニ於テ所有者ナル被告ヲ差措キ他人へ讓

四六

與スルノ權利ハ厘毫モ無之初審ノ節原告ノ答辨ニ田村家ノ名前ニ書換ユヘキモ被告ヘ對シ書換ヘ難キ旨申立加之左ノ第二號證ニ御名前換等ノ節ハ一應被仰聞萬一其砌下拙相拒ニ候ハ、其節御訴訟モ不遲事ト存候云々ト申越置ナカラ

第二號

一筆奉啓達候良久敷不得拜頰候得共益御清康奉恐賀候借差附候儀ニ御座候共先年當府深川佐賀町地所事件ニ付證書差上置候其原由私ニ於テモ田村御家ヘ奉對聊盡力仕候儀モ有之穩當之御所置ニモ預度御名前替等之節ハ一應被仰聞万一其砌下拙相拒ニ候ハ、其節御訴訟モ不遲事ト存候然ルニ貴君ヨリ何之御沙汰モ無之不意ニ御訴ニ相成候段如何ニモ合點行不申必々平素御懇命ニ預リ候貴君之御思召ニ而ハ無之他人ノ煽動致シ候儀ト奉拜察候

万々一御高慮ヨリ出候儀ニ御座候ハ、訟狀御與書ニ怪敷件々御座候ニ付是非御本人ニ對決ヲ受申度候問否御返翰至急御報奉待候條餘ハ期後便先ハ右如此御座候恐惶頓首
第十月八日
市岡平兵衛

岡崎寛司様

貴下

二白乍末筆御尊家皆様ニ宜敷御鶴聲奉伏願候本文奉願上候通否哉御報是非至急奉待候不備

審問稍半ハ相濟候頃ヨリ突然田村家ヨリ貰受ケタル杯申立最初答辨ノ意旨ヲ中變シ強テ申在ケントノ心意ナリトス

第二條

田村家前家命ハ田村家ノ所有タルヲ證言シ後ノ家命ハ田村家ノ所

五六

有ニアラスト證明シ而シテ後ノ家令ハ事實ヲ辨ヘサルヲ以テ信シ難キ旨原告ヨリ申立ツレモ前後兩家令ノ申供符合スルモ又相反對ナルモ畢竟前後兩家令ハ田村家ノ雇人ニシテ何レモ事實ヲ辨ヘサルモノニ付共ニ信用シ難シ然レモ今原告ノ申立ノ如ク前家令ノ申供ヲ確實ナルモノト見做スモ其所有者ナリト指稱スル田村崇顯カ纒ニ東京裁判所ノ調ニ應シテ陳ヘタル答辨書ニ田村家ノ所有ニアラサルハ勿論該品ニ關係之レナキ旨申立タル上ハ前家令ノ答辨ハ自カラ無効ニ屬シタルモノナリ結局被告寛司ノ所有品ヲ原告平兵衛ヘ寄托セシモノニ付原告ニ於テ寛司ヘ對シ該物件ノ名前書換ヲ拒障スル權利ハ更ニ無之義ナリ

第三條

此ノ本間百カ陳述ノミチ判文ニ掲ケラレテ自分主張スル前家令兩

人ノ事ヲ掲ケラレサルハ不法ノ裁判ナル旨原告ヨリ申立レモ前後兩家令ノ申供スル主意相反對スルモ歸着スル所ハ田村家ノ一点ニ止マルモノナレハ田村崇顯ヨリ証書ヲ以テ委任シタル代理人本間百ノ陳述ノミチ判文ニ掲ケラレタルハ事實ヲ推考セラレタルニ原因シ決テ偏頗不法ノ裁判ニアラサルナリ

第四條

原告ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリト思度シ大審院ヘ上告スルニハ明治八年第九十三號公布控訴上告手續ヲ遵守スヘキハ論ヲ俟タズ然ルニ本訴ハ既ニ執行モ相濟悉皆落着セシト思ヒシ所突然喚出狀到達始テ市岡平兵衛ヨリ上告及ヒタル事ヲ知リタリ抑始終裁判ヲ不法ナリト主張スルニハ己レ先ツ法ヲ守リ而テ後チ他ノ不法ヲ訴フヘキ筋合ナルニ今市岡平兵衛ハ控訴上告手續ニ同時

被告へ通知スヘシトアルニ其通知ヲ爲サ、ルハ該公布ヲ守ラサルモノナリ然レハ彼レ先ツ法ヲ破リナカラ他ノ不法ヲ主唱スルハ條理ニ反背シタルモノト言ハサルヲ得ス本條ハ本件ニ對シ障害ハ無之事柄ニ有之レト東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリト主唱スルヲ以テ黙々ニ付スルヲ得サルナリ

上告ノ主點

本訴家屋敷ノ義ハ元來田村家ノ所有ナリシヲ明治五年壬申七月田村家ヨリ原告人へ賞請地券モ原告名前ニ改メ貢租諸税モ原告ニテ相納メ居ルヲ以テ原告ノ所有タルハ判然タリ因テ田村家ヨリ特別ノ示談トアレハ格別ナリト雖モ曾テ所有ノ權ナキ岡崎寛司ノ求メニ應シ地券名前ヲ書改ムルノ理由無之トノ事

辨明

原告ガ東京上等裁判所ニ控訴スルニ當リ曾テ東京裁判所ノ審問ニ答ヘタル田村家ノ前家令西田海輔佐藤時教兩人ノ書面ヲ證據ト爲シ本訴ノ地所建家ハ田村家ノ所有物ナルヲ原告ニ賞請ケタル旨申立テタル上ハ東京上等裁判所ニ於テハ宜ク被告人ヲ喚問シ其引合本人タル田村崇顯ヲモ取糺シ以テ所有權ノ在ル處ヲ判決スヘキニ然ラスシテ啻ニ被告人ノ答辨ヲ要セサルノミナラス引合人田村崇顯ノ證明ヲモ求メスシテ直チニ引合代人本間百カ東京裁判所ニ申立テタル書面ニ據リ田村崇顯ニ於テ岡崎寛司ノ所有ナリト明言スル上ハ右岡崎寛司ヨリ地卷名前書替ヲ請求スルヲ原告ニ於テ之ヲ抗拒スルノ權利ナキモノト判決セシハ審問ヲ盡サ、ルモノニ付至當ノ裁判ニ非ストス

判決

○七

前條ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ニ於テ爲シタル明治九年十月十一日ノ裁判ヲ破毀ス依テ更ニ本院ノ審判ヲ受ク可キ事

第九十三號

○質地受戻一件上告ノ判文明治十年五月十日上告
明治十一年六月十三日申渡

埼玉縣武藏國足立郡御藏

村平民

原告

中島傳左衛門

東京府第五大區一小區淺

草須賀町二十番地平民

右代人

谷口竹次郎

埼玉縣武藏國足立郡大谷

村平民

被告

野崎多左衛門

東京府第一大區十二小

區橋本町六番地平民

右代人

浦田治兵衛

東京上等裁判所ノ判文

原告人〔野崎多左衛門〕ハ明治元年十二月日不覺原告野崎多左衛門〔所
持ノ畑山合反別六反八畝九步ノ地所被告中島傳左衛門ハ三ヶ年季
ヲ以テ質地ニ相渡金百三十兩借受年季明ニ至リ若地所難受戻節ハ
何ヶ年相立共本金ヲ以テ返地スヘキ約定ニテ第一号ノ通返証書取
置

本文返証書ノ寫左ノ如シ

返リ証文之事

一七

- 一下々畑三畝拾二步 字向原九十二番
- 一下々畑四畝六步 字向原九十五番
- 一下畑六畝六步 字向原九拾八番
- 一下々畑三畝拾八步 字向原百一番
- 一下々畑三畝六步 字向原九拾三番
- 一下々畑六畝九步 字向原九拾六番
- 一下畑六畝三步 字向原九拾九番
- 一見附畑壹畝拾五步 字向原百貳番
- 一下々畑三畝六步 字向原九拾四番
- 一下畑六畝拾五步 字向原九拾七番
- 一下畑五畝廿七步 字向原百番
- 一山壹反八畝六步 字同所貳百四番

反別六反八畝九步

此質代金百三十兩ニ而可返對談

名主印

右者貴殿地所書面之通質地ニ預リ置候處相違無御座候依テハ我等所有來リ候内何々年相過候共無相違御返可申候且外々エ質地ニ差出候様之儀御座候得ハ我等方ニ而所持可致對談ニ而返リ証文因テ相渡申處如件

足立郡白岡村

明治元辰年極月日

預リ主 傳左衛門印

世話人 伊右衛門印

親類 常七郎印

組合 利左衛門印

名主 庄左衛門印

大谷村

多左衛門殿

明治六年地券發行ノ際被告中島傳左衛門ヨリ地所請戻ノ掛合有リ
 タルキ差向金子不調ニ付猶豫相頼ミ一時被告中島傳左衛門ニテ地
 券名請致置金子調達ノ節原告野崎多左衛門名前ニ書替ル約束ニテ
 証據ニ返証書据置其後金子調達地所請戻ヲ掛合處前約ヲ違變シ被
 告中島傳左衛門ニテ地券名請シタル上ハ難差戻杯不當申張リ無據原
 告野崎多左衛門ヨリ返証書ヲ以テ明治九年十一月二日浦和裁判所
 ニ質取戻ヲ訴出ル處原被告承諾ノ上地券名請セシ上ハ難差戻杯ニ結ヒシ
 契約ハ消滅スルニ付今更取戻ヲ訴ル筋無之トノ判決ナレトモ該証書
 ノ趣意ニ基キ質代金返辨スベク且ツ明治六年中被告中島傳左衛門
 ヨリ借入レタル金圓ヲモ返却致シ地券書換地所差戻請度旨申立タリ

被告人中島傳左衛門ハ原告野崎多左衛門申立ノ通地所三ヶ年季ヲ
 以テ質地ニ請取金圓貸渡年季明ニ至リ難請戻節ハ被告中島傳左衛
 門方ニテ名請スヘキ旨第一号ノ通証書取置

本文証書ノ寫左ノ如シ

相渡申質地証文之事

- 一下々畑三畝拾二步 字向原九十二番
- 一下々畑三畝六步 字向原九十三番
- 一下々畑三畝六步 字向原九十四番
- 一下々畑四畝六步 字向原九十五番
- 一下々畑六畝九步 字向原九十六番
- 一下畑六畝十五步 字向原九十七番
- 一下畑六畝六步 字向原九十八番

一下畑六畝三步

字向原九十九番

一下畑五畝廿七步

字向原百番

一下々畑三畝拾八步

字向原百一番

一見附畑壹畝拾五步

字向原百二番

一山壹反八畝六步

字同所二百四番

但立木共ニ

反別六反八畝九步

此質代金百三拾兩也

右ハ當辰ノ御年貢其外諸事拂方ニ相詰リ書面ノ畑山貴殿へ質地ニ相渡シ金子百三拾兩只今慥ニ請取借用申處實正也但年季ノ儀ハ當辰極月ヨリ來ル未ノ極月迄中三ヶ年季ニ相定申候且年季明キ未ノ暮ニ相成候得者右元金不殘返濟仕候得ハ畑山証文共ニ御

返シ可被下候若シ其節金子調達兼受戻シ申事不罷成候得ハ貴殿名請ニ被成候亦ハ何方へ質地ニ差出シ候共御勝手次第ニ可被成候事

一御王政様御年貢ハ不及申諸役出錢等迄貴殿方ニテ御勤メ可被成候尤モ此畑山ニ付御拜借二重ノ書入等曾テ無御座候若シ横合ヨリ違亂妨申モノ御座候得ハ我等加判人引受貴殿へ聊御苦勞相掛申間敷爲後日相渡シ申質地証文仍而如件

足立郡大谷村

明治元年

地主

多左衛門印

極月日

親類

常七郎印

世話人

伊右衛門印

百姓代

茂右衛門印

組頭	利左衛門印
同	儀左衛門印
同	藤藏印
同	平藏印
年寄	定右衛門印
名主	庄左衛門印

白岡村

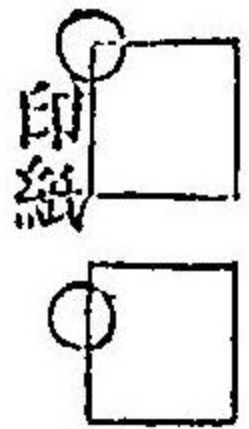
傳左衛門殿

原告野崎多左衛門ノ小作爲致タル處明治六年中地券發行ノ際原告
 [野崎多左衛門]方ニ渡アル返証書ニ何ケ年ヲ過ル共被告[中島傳左衛
 門]所持中ハ可返地トアルヲ以テ地所請戻ヲ掛合處原告野崎多左衛
 門ニ於テ之ヲ可受戻資力無之被告[中島傳左衛門]ニ地券名請ヲ承諾

致シ其節尙又金子借用依頼ニヨリ右地所ニ付向後無心ケ間敷事申
 間敷筈ニテ第二号ノ通金貳拾六兩三分三朱無期限ノ証ヲ以テ貸渡
 シ

本文証書ノ寫左ノ如シ

借用申金子之事



一金貳拾六兩三分貳朱壹朱

右ハ我等所持之庭畑山共ニ而去ル六ケ年已前不殘貴殿方ニ質物
 ニ相渡候儀ニ付此度無據金子入用ニ付加判人立會只今慥ニ請取
 申候實正ニ御座候然ル上ハ何様之儀御座候共右地所ニ付無心ケ
 間敷事一切申間敷候右金子返濟之儀ハ貴殿御入用次第元利共急
 度相濟可申候爲後日借用証文仍テ如件

足立郡大谷村

明治六年

借用人 野崎多左衛門印

酉極月日

世話人 晝間伊右衛門印

證人 鈴木常七郎印

御藏村

中島傳左衛門殿

聊苦情無之筈ノ處已ニ消滅シタル返証書ヲ以今更地所取戻ヲ請求
スル所以無之旨申立タリ
依テ判決スルヲ左ノ如シ

明治元年十二月原告野崎多左衛門所持ノ地所六反八畝九步三ヶ年
期ヲ以テ被告中島傳左衛門へ質地ニ差入其砌原告野崎多左衛門ヨ
リ被告中島傳左衛門へ差入アル証書ニ年期明云々請戻申事不相成

候ハ、貴殿名請ニ被成歟又ハ何方へ質地ニ差出候共御勝手次第可
被成ト有之ニ其儘闇キ明治六年地券發行ノ砌猶又原被示談ノ上被
告中島傳左衛門ニテ名請致シ右地所ニ付向後無心ケ間敷儀中間敷
筈ニテ更ニ被告中島傳左衛門ヨリ金圓借請タルヲ見レハ右地所々
有ノ權全ク被告中島傳左衛門ニ在リト雖モ明治元年十二月右地所
質入ニ致シタル節被告中島傳左衛門ヨリ原告野崎多左衛門へ差入
タル証書ニハ右地所被告中島傳左衛門所持ノ内何ヶ年相過ルニ元
質代金ヲ以テ無相違返戻可致旨ニ有之素ヨリ質地期限三ヶ年ヲ經
過シ其所有權被告中島傳左衛門へ移リシ後タリト最初ノ質代金ヲ
以テ原告野崎多左衛門へ差戻スノ契約ト見認メタリ而シテ該証書
原告野崎多左衛門方ニ尙存在スル上ハ原告野崎多左衛門申立ノ通
元質代金并明治六年極月附ケノ証書面借入金ハ原告野崎多左衛門

ヨリ被告中島傳左衛門へ相渡シ該地ハ被告中島傳左衛門ヨリ原告
〔野崎多左衛門〕へ請取リ地券書替致シ候儀ト可相心得事 明治十年三
月十七日

大審院ニ於テ

原告 中島傳左衛門代人谷口竹次郎上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ裁判ヲ執行シ地所差戻シ返リ証書ヲ受取リ檢閱
スルニ明治九年八月十二日七等判事牧山矩代理二級判事補高橋正
法ノ檢印アリ然シテ今回上告及ヒタル質地取戻シ一件ヲ初審裁判
所へ被告カ告訴シタルハ明治九年十一月二日ナリ是ニ於テ不審ヲ
起シ初審裁判所へ被告カ詞訟ノ手續伺出タル處左ノ如シ

埼玉縣第二十一區武藏國足立郡大谷村七

拾七番屋敷居住平民

原告人

野崎多左衛門

質地所取戻ノ訴

同縣同區同國同郡御

藏村平民

被告人

中島傳左衛門

一畑山六反八畝九步

明治元辰年極月返リ証書何ケ
年相立共金調ノ上ハ可相返約

質代金百三拾圓

証據書ノ寫左ノ通り

明治九年八月十二日 返シ証文之事
七等判事牧山矩代理
二級判事補高橋正法 閱印 内譯反別茲ニ畧ス

反別六反八畝九步

此質代金百三拾圓ニ而可返對談

右ハ貴殿地所書面之通質地ニ預リ置候處相違無御座候依テハ我等所持來リ候内何ケ年相過候共無相違御返シ可申候且外々エ質地ニ差出候様ノ儀御座候得ハ我等方ニ而所持可致對談ニ而返シ証文因テ相渡申處如件

明治元辰年極月日

足立郡白岡村

明治九年第九百七号

預主

傳左衛門印

甲號

セハ人

伊右衛門印

東京上等裁判所

親類

常七郎印

七等判事 中尾拾吉印
明治十年二月廿二日閱

組合

利左衛門印

名主

庄左衛門印

大谷村

多左衛門殿

右原告人野崎多左衛門奉申上候私所持地ノ内前記反別質代金百三拾圓ヲ以質地ニ被告中島傳左衛門ニ相預ケ置尤モ何ケ年相過候共本金百三拾圓相濟シ候上ハ地所無相違可相返約定殊ニ前寫載之通リ返リ証書有之罷在ニ付方今至リ金調行届候ニ付地所相返吳候掛合及候處何分不實ノ儀申張更ニ相返シ吳不申難儀至極素ヨリ簿録ノ義ニテ右地所ニ相離レ候テハ相續方ニモ差支候間何卒被告中島傳左衛門被召出前書質地相預ケ置候地所相返質金受取候様御裁判所被成下度奉願上候

右

明治九年八月十一日

野崎多左衛門印

埼玉縣第廿二區足立

郡浦和宿百八拾二番
屋敷居住

差添人

内田巳之助印

埼玉裁判所長

七等判事牧山矩殿

埼玉縣第二十一區武

州足立郡大谷村平民

農

原告人

野崎多左衛門

右ハ私ヨリ同縣同區同郡御藏村中島傳左衛門ニ相係ル質地取戻
ノ儀奉出訴候處御糺ノ末右質地所ノ儀ハ最早流地ニ相成居候儀
ニ付可取戻權利無之段覺知了解仕候間右訴狀御下ケ切被成下度

奉願上候尤控訴上告等致サス間御聞濟奉願上候

右

野崎多左衛門印

埼玉縣二十二區足立

郡浦和宿

代言人

内田巳之助印

埼玉裁判所長

七等判事牧山矩殿

願之趣聞届候事

前述ノ如ク返リ証書ヲ證據トシテ明治九年八月十一日告訴及ヒ翌
十二日ニ至リ自ラ取戻シテ請求スルノ權利ナキヲ覺知シ控訴上
告ヲ成サ、ル趣旨ニテ訴狀ノ却下ヲ請願シ聞濟ニ成リタルモノナ

レハ再ヒ之ヲ訴ヒ該地取戻シテ請求スル權利ナキコトハ必セリ然ル
テ東京上等裁判所ニ於テハ該返リ証書ヲ以テ質地請戻ノ控訴ヲ受
理セラレタルハ聽斷ノ定規ニ背クモノト思考ス

第二條

抑本訴質地ノ儀ハ明治元年十二月被告所有ノ地所合反別六反八畝
九歩ヲ三今年期ノ質地ニ請取リ金員貸渡シ期限ニ至リ証書面明文
ノ如ク地所ノ名請ヲ成サ、ルヲ以テ一時無年期ノ質地ニ生質ヲ變
換スレトモ明治六年地券發行ノ際更ニ原被告者示談ヲ遂ケ再ヒ金員ヲ
貸與シ該地ニ付無心ケ間敷事一切申間敷ト盟言シタル上原告名請
ニ改メタルハ地所々有ノ權ハ確乎トシテ移リシモノナレハ返リ証
書ノ効力消滅セシコトハ固ヨリ論ヲ待タズ故ニ強テ取戻ヲ要セサリ
シナリ然ルテ東京上等裁判所ニ於テハ第一條ニ陳述スル如ク受理

ス可ラサル控訴ヲ受理シ無効ノ証書ヲ以テ確定セル地所ニ對シ返
地ノ裁判ヲナシタルハ審理ヲ盡サ、ル不當ノ裁判ト思考ス是レ上
告シテ破毀ヲ乞フ所以ナリ

但シ原告ニ於テ單ニ返リ証書ノ効力ニ於ケル已ニ消滅ナシタル
ト云フニ非ス該質地証書ニ於ケルモ俱ニ明治元年十二月成立チ
タルモノニシテ返リ証書ニ右ハ貴殿地所書面之通質地ニ預リ置
云々トノ明記アルニ因レハ其質地証書ト返リ証書ト相俱ニ密着
シテ離ル可カラサルモノナリ然シテ本文ニ申陳スル如ク明治六
年熟議決約ノ上無心ケ間敷儀云々ト盟言シ更ニ地所々有ノ權ヲ
原告へ移シタル際質地証書ノ効力ハ已ニ消滅ス依テ返リ証書ノ
効力モ亦隨テ消滅ナシタルト云フノ筋合ナリ且地所々有ノ權ノ如
キニ於ケルハ明治五年第五十号公布ノ先後ニ於テ大ニ異ナルモ

ノナレハ賣買ノ通義モ亦異ナラサル可カラズ而シテ最前質地證
書ノ効力ト俱ニ其効力ヲ消滅シタル返リ證書ヲ以テ今更質地取
戻シヲ要求スル權利ナキハ論ヲ竣タサルモノナレハ地所々有權
ノ轉シタルヲ以テ質地取戻シヲ要求スル權利ナシト喋々スルニ
アラズ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ是等ノ審理ヲ遂ケラレヌ
裁判アリシハ聽斷ノ定規ニ背クモノト思考ス

被告 野崎多左衛門代人浦田治兵衛答辨ノ要領 明治十一年
五月六日

第一條

上告要旨第十條ニ詞訟ノ手續不審云々ハ則明治九年八月十一日浦
和裁判所へ出訴セシ處返リ證書上ノ要点ヲ辨駁シ盡サ、ル所アリ
加フルニ明治九年六月廿七日附戸長回答書ノ旨趣ヲ申述セサルチ
以テ同年十一月二日契約ノ成立チタル原由及ヒ戸長ノ回答書ヲ捧

ケ

本文回答書ノ寫左ノ如シ

其御部内大谷村野崎多左衛門ヨリ當部内御藏村中島傳左衛門へ
相掛リ地所受戻ノ儀ニ付本人並御役人其外御附被成返リ證書有
之ニ付地所相返シ吳候様中島傳左衛門へ説諭致吳候様過日當事
務所へ御申出ニ相成候ニ付當人呼寄地所相返シ候様篤ト説諭差
加ヒ候處本書證文金ハ勿論別紙證文ニ相成候金子迄モ返濟ニ相
成候ハ、地所差戻可申旨當人申之ニ付當人口述詳話之段不取敢
及御報知候也

第六月廿七日

新井村事務所

戸長

乙號

白倉治兵衛印

東京上等裁判所
七等判事 中尾拾吉印
明治十年二月廿二日閱

副戸長

井上安之丞印

淺子要右衛門印

區内門前村戸長

長島八左衛門殿

更ニ初審ヲ乞ヒ而シテ控訴セシモノナリ

第二條

上告要旨第二條ニ地所々有ノ權ト返リ証書ノ効力有無ヲ辨駁スト
雖モ被告ニ於テハ固ヨリ所有ノ權ヲ爭フニ非ス何トナレハ地所々
有ノ權ハ假令彼ニ移ルトモ返リ証書ノ存在セル上ハ該地ヲ原告所
有中ハ何時ニテモ受戻シテナスノ權アリ何ソ該地ノ名請ヲ改ムル
ト改メサルトニ依リ返リ証書ノ効力ヲ消滅スルトセサルトノ理ア

ラソヤ且明治六年更ニ金員借受ケ該地ノ名請ヲ承諾ナシタルトハ
何ノ理由アリテ斯ノ如ク陳述セシヤ明治六年ノ借用金ハ原告カ需
メニ應シ返金スルノ義務アル明文アレハ則純粹ノ借用金証文ナリ
是ヲ地券名請ニ關係アルモノト陳述スルハ誤説ノ甚シキモノトス
何トナレハ明文中我等所持ノ山畑不殘貴殿へ質入シ尙ホ他ヨリ金
子借入ルヘクモ余ニ地所之レナキヲ表シ併セテ將來該質地代金
ノ借添ヲ需ムマシクト証書シタル迄ニテ地所受戻シテ絶念セシモ
ノニ決シテ之レ無シ所謂涙金ト稱シ受領セシモノナレハ曷ソ返金
ノ約ヲ記スルノ理アラソヤ果シテ然ラハ地所受戻シニ付毫モ障碍
アルモノニ非サレハ東京上等裁判所ニ於テ返地ノ裁判アリシハ至
當ノ裁判ト思考ス

辨明

原告ハ東京上等裁判所ニ於テ受理ス可ラサル控訴ヲ受理シ無功ノ返證書ヲ以テ受地ノ裁判ナシタルハ不法ノ裁判ニ付之ヲ破毀スヘシトスレニ其被告カ同一ノ訴訟ヲ再度迄初審裁判所ヘ訴出タルトハ東京上等裁判所ニ於テ原被双方ヨリ申立タルコトナキノミナラス被告ハ會テ初審裁判所ニ於テ最初ニ差出サ、リシ戸長ノ回答書ヲ添ヘテ訴出タル者ナレハ之ヲ受理シタルハ當然ノ事ナリトス又返證書ヲ以テ受地ノ裁判ナシタルハ明治六年酉極月付借用金證書ノ爲メニ返證書ノ功ヲ失フヘキ者ニアラサレハ之ヲ無功ノ證書ナ以テ裁判ナシタリト謂可ラス何トナレハ其返證書ハ本訴ノ質地年季明キ質取主ノ名受ニナルモ仍ホ元質代金ヲ以テ之ヲ受戻スヘキ契約ナレハナリ而シテ右借用證書ハ尋常貸借ノ契約ニシテ其文中右地所ニ付無心ケ間敷事一切申問敷トアルハ右質地ニ付向後金

子借添等ノ事致ス間敷トハ解スヘキモ右質地ハ流地ナシタルニ付向後之レヲ受戻サストハ解スベカラサレハ更ニ此證書ヲ以テ前契約ヲ更改シタル者ト爲ス可ラス故ニ其返證書ヲ以テ受地ノ裁判ナシタルハ之ヲ當然ノ事ナリトス

判決

右ノ筋合ニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ之ヲ破毀スヘキ理由ナキ者トス

第九十四號

○地券名請爭論一件上告ノ判文明治十年二月廿四日上告
明治十一年六月十三日申渡

静岡縣下駿河國有渡郡村

松村平民村用掛

原告

望月清吉

原告 同國同郡同村戸長千葉敬胤

東京府下第五大區一小區
淺草須賀町二十番地平民

右代人 谷口竹次郎

同國同郡同村平民

被告 大橋毅

同國同郡同村平民

被告 大橋備

同國同郡同村平民

右代人兼 大橋藏人

東京上等裁判所ノ審判

原告 大橋毅外一人代兼大橋藏人控訴ノ要領

駿河國有渡郡村松村ノ内元妙音寺村久能寺分朱印地舊高二百二十五石七斗ノ内百姓名受ノ外院主坊始メ各坊名受ノ高七十八石六斗七升四合手作分ト唱テ之ヲ所有シ即チ慶長十四年檢地帳ニ掲載ノ通りニテ從來地脇百姓ニ小作致サセタリ其証ハ明治四年正月興津宿人馬仕埋割付金觸當ノ節總高ノ内九十石餘ハ地頭散田預リ地ニ付村方ヨリ高役難勤旨申述セシヨリ静岡藩ノ取調ヲ受ケ各坊名受ノ分ハ各自出金シ其他文久四年寺院手作分ノ小作人共へ出金ノ義申談セシ節モ承諾ノ上金圓差出シタル左ノ書面アリ

興津宿人馬賄割賦金請取證

覺

高貳百四石五斗六升三合六勺ノ内

一高九拾石壹斗貳升七合九勺

此割賦金三拾壹兩壹分

永八十五文壹分三厘

右者去々辰五月ヨリ午三月迄人馬御賄割賦金書面ノ通體ニ受取申候以上

興津宿

年寄

手塚十郎印

辛未

二月

同

大久保利一印

元久能寺惣代

大橋藏藤殿

興津宿人馬賄割賦金ノ義ニ付云々

乍恐以書付奉願上候

有渡郡妙音寺村名主小平病氣ニ付代人奉申上候當村ノ義ハ往古ヨリ高反別御地頭ニテ扣置百姓ハ永代散田ニ預被置年預役相立高掛リ等ノ義ハ諸事取賄致來リ候ニ付今般御支配様ヨリモ割賦金割出金被命候得共村方役人共ニテハ御請難出來候ニ付何卒御地頭年預役御呼出シ右等ノ御利解嚴重被仰聞候様乍恐此段幾重ニモ奉願上候以上

妙音寺村

役人代

金

平印

明治四年未正月

興津宿御詰

驛遞御掛リ

御役人御衆中様

文久四年手作分百姓ノ願書

一今般村中一同難澁ニ付願書ヲ以願出候趣左ノ通

乍恐以書付奉願上候

御地領惣百姓一同奉願上候去亥八月中御院代様ヨリ被仰渡候御
 趣意ハ御寺々御手作分百姓共方ニ古來ノ書モノ等有之候ワハ持
 參可罷出旨御觸有之候ニ付銘々罷出古書類等無御座旨奉申上候
 處其儀ニ付被仰付候ワハ此方ニテ金子入用到來ニ付右手作分御
 年貢一石上納イタシ候場所ニテ金八兩宛或ハ畑地一石上納イタ
 シ候場所ニテ金七兩宛上納可仕旨被仰渡候ニ付一同驚入直様申
 合篤ト評議仕候得共困窮ニ陥リ百姓中々以談判不行届歎願筋ハ

勿論ノ儀ニ付乍恐口上ヲ以先規仕來リ通奉願上候處猶又被仰付
 候ヲハ下方ニオイテ金子調立兼候ワハ右手作分質ニ入金十兩ニ
 付米五斗五升宛ニテ此方ニテ金子相働可申候間銘々印形持參可
 罷出旨嚴重被仰付候ニ付猶又一同評議心痛罷在候處既ニ舊一人
 限リ御呼出シ相成御年貢一石上納可仕場所ニテ米一俵宛自今屹
 度可相納且ハ其儀難出來候ハ、御手作分不殘御引上可申旨嚴重
 御利解被仰聞候ニ付一同無此上晝夜心痛談判仕候得共舊來無之
 殊ニ連々困窮ニテ他借融通モ難出來折柄兩様共新規而已如何當惑
 至極罷在候處先月十一日御手作分不殘御引上ニ相成難澁餘リ御
 直訴乍恐奉願上候此上ノ儀ハ御慈悲ノ御救奉願上候ヨリ外無御
 座候一同決仕候何卒格別ノ御憐愍ヲ以百姓一同無難相續農業相
 成候様偏ニ奉願上候右御院代様ヨリ被仰聞候趣ニテハ村中一同

難澁仕難立行候間爲御冥加ト金拾五兩上納仕候間厚以御憐愍先
規仕來リ通御年貢ニテ御聞濟被成下候ハ、難有仕合奉存候右願
ノ通御聞濟被成下候ハ村中一同難有仕合奉存候以上

當御地領百姓

文久四子年二月

榮	七印
與	助印
政	八印
庄	左衛門印
常	藏印
政	右衛門印
甚	平印
政	五郎印

平	左衛門印
伊	左衛門印
定	右衛門印
和	助印
清	吉印
清	七印
久	四郎印
傳	七印
吉	左衛門印
喜	兵衛印
半	六印
清	兵衛印

法橋役

平 八印

八左衛門印

市郎右衛門印

善右衛門印

御地頭方丈様

御役人衆中

然ルニ明治三年庚午十二月社寺領朱印除地現境内ヲ除クノ外一般
上地被仰出タルニ付明治七年二月該地元手作分ノ耕地御拂下ケテ
静岡縣廳ニ請願セシニ追テ一般ノ處分可相達旨ノ指令有之其後檢
地帳竿受名前有之分ハ其者ニ引戻シ下付可相成旨傳承セシニ付再
ヒ同縣廳へ左ノ願書差出セシ處

檢地帳名請分御引戻願書

上地御引戻願書

私 共 儀

先般御布告ニ因復飾仕候處明治六年舊神官ノ者士族平民へ編入
被仰付候得共差向活業等無之故庚午十二月社寺領上知被仰出候
御布告書内三ヶ條目上知田畑百姓持地ニ無之社寺ニテ直作云々
従前ノ通所持不苦ト有之候者朱印地除地元來百姓持地ヲ社寺云
云但書ニ其社寺へ拂下不苦旨大藏省御布達ノ趣モ承知罷在候ニ
付民籍編入ノ後御拂下奉願候得共追テ一般ノ處分可相達旨御指
令相成候然ル處御檢地竿請ノ分ハ其竿請主へ御引戻地ニ相成候
趣此程正ニ承知仕候間村役人へ申談候處最早村方へハ御指令濟
相成居安心ノ旨申答ノ願書相見セ不申私共儀何分願道了解難仕

候ニ付更ニ私共ヨリ奉願上候義ハ慶長十四年御檢地ノ節各坊御
 竿請ノ地所數多有之即御檢地帳ノ寫往古ヨリ所持有之候處明治
 六年十一月當村へ御檢地御改ノ節淺間領書類御出役先へ可差出
 御沙汰ニ付右書類借用致度由當村戸長申來リ候間貸遣其後數度
 相返候様催促仕候得共何分不相返依之無據前帳同年十月廿八日
 大光坊外ニケ坊取調御檢地ノ上各坊取前帳并中之坊分御檢地帳
 寫ノ通ニ御座候右本紙御檢地帳ハ明治四年未四月中淺間領取調
 ノ義ニ付御檢地帳ハ勿論村々預置候書類爲見合セ可相成書付有
 之候ハ、可差出旨元靜岡最寄郡方御役所ヨリ御達ニ付其節元久
 能寺領御檢地帳二冊差上候後御下無之候間于今御付渡リニ相成居
 義ト奉存候尤前帳二冊中之坊之廉ニテ爲御突合被成下候得者相
 分リ可申ト存候ニ付何卒御取調ノ上銘々竿請ノ者へ御引戻地ニ被

被成下置度依之此段奉願候也

當縣管下第四大區二

ノ小區有渡郡村松村

元舊神官

久能岩雄印

明治七年七月十三日

同斷

大橋藏藤印

同斷

大橋備印

同斷

大橋毅印

同斷

智守 千代吉印

同斷

并能 彌忠治印

同斷

久保 千木雄印

右惣代

大橋 藏藤印

同斷

久能 岩雄印

静岡縣權令大迫貞清殿

書面願之趣者去ル三月中村方ヨリ名受地之旨出願ニ付檢地帳其
外及調査候處高貳百貳拾五石七斗者持地ニ相違無之候間追而地

券可下ケ渡旨村方へ指令ヲヨヒ置候義ニ付右ノ内其方共名受地

之分有之候ハ、地券相渡候節銘々戸長ヨリ受取可申事

〔但書畧ス〕

右ノ如ク指令有之依テ其顛末ハ戸長村用掛へモ届置タリシニ何分
ノ通達モナクシテ地券未渡小前帳ニ作人ノ所持地トナシ縣廳ニ進
呈セシヲ以テ原告名前書加へテ掛合及フト雖モ差拒ミ肯諾セサル
ニ付不得止静岡縣裁判所ニ出訴セシ處其裁判タルヤ原告人証據ト
ナル檢地帳其他ニ據ラス被告人提供スル年貢取立帳并該朱印地村
吏ノ連印セシ地所賣買証書ニ據リ裁判アリタレモ素ヨリ從來ノ小
作人於テ内密賣シタルモノニシテ舊地頭即チ當時所有者ニ於テハ
曾テ知ラサルコナリ是原告ニテ左ノ證書ヲ保有スル所以ナリ

御朱印地讓渡法度心得之證寫

差出申一札ノ事

去ル卯年中村松村勘兵衛地所同村半右衛門へ質地ニ差入右證文讓渡ノ趣今般金主半右衛門申之行違ヨリ右勘兵衛御社中へ出願ニ付右ノ段御利解ニ預リ何共恐入候得共右ハ御朱印地讓渡ハ御法度ノ事故若讓渡證文ニ候ハ、決テ調印ハ不仕儀ノ處其砌勘兵衛代親類久藏并金主方半右衛門倅半右衛門同道ニテ質證文ニ相違無之趣申之且私儀ハ無筆同様旁全質地ト相意得調印仕候ニ相違無御座依之一札差出申候處如件

明治四未二月

妙音寺村

名主 小

平印

元地頭所

御年番衆中様

右ノ如クナルヲ以テ今般覆審ヲ請フ所以ノ要旨ハ檢地帳ニ掲ケタル妙樂院大光坊中ノ坊名受反別都合三町五反九畝廿壹歩ノ分被告入於テ地券未渡小前帳ニ原告三名ノ名前ヲ書加ハ縣廳へ差出ス様裁判受度シ

被告 千葉敬胤望月清吉代人山梨吉藏外一人答辨ノ要領

慶長年間檢地帳ニ記載スル静岡淺間領村松村ノ内元妙音寺村久能寺分朱印地舊高二百二十五石七斗ノ内七十八石六斗七升四合ハ寺院ノ名受ニテ其内反別三町五反九畝二十一步ノ分原告三名於テ名受ノ所有地ナリト申立レ該朱印地ハ往古ヨリ地頭久能寺一山ニテ進退シ諸帳簿モ總テ同寺ニ保存シ各坊ノ觸達ニ隨ヒ毎年貢納シ來ルヲ以テ村内ニテハ寺院名受タルカ百姓名受タルカ巨細ノ譯柄辨知不致外貢租ニ比較スレハ多分ノ取米ニシテ高免ナル故ニ上地

前ハ地頭散田ト心得居タリ而シテ原告証據トシテ陳述スル明治四年正月興津宿人馬仕埋金并文久四年二月寺院手作分出金申付シキ村内一同ヨリ出金ノ筈ニ書面取極等セシ廉々ハ畢竟該地前顯ノ原田ノ辨知セサルヨリ生セシコニテ其後明治三年十二月社寺領一般上知被仰出久能寺元朱印地ノ分各坊年貢帳并檢地帳其外帳簿共明治六年十月兩度ニ地頭ヨリ引渡サレシニ付之ヲ一覽スルニ檢地帳ノ如キハ只綴目數葉ノ紙ニ捺印アルノミニシテ檢地役人ノ印影ナキヲ以テ寫本等ハ存スレヒ素ヨリ正實ノモノト看認ルヲ以テ夫々調査致セシ處一般ノ貢租ト同一ニシテ免取延米ト唱へ本途及ヒ延米ノニ相納メ外ニ小作米ニ當ル散田米ヲ不差出テ分明ナリ且該地所ハ從來銘々ノ所有タルヲ以テ勝手ニ賣買シタル其証書左ノ如シ

拾个年季ニ相渡シ申田地証文之事

元久能寺領ノ内

下田八畝步

納米五斗九升三合三勺

分米七斗八升四合

字横町ノ坪

中田五畝步

納米三斗七升七合二勺

分米五斗

字猿ハタノ坪

下田三畝步

納米二斗四升九合五勺

字京田ノ坪

反別合壹反六畝步

分米合壹石六斗壹升四合

代金三拾六兩也

但通用金也

右者當未御年貢ニ差支候ニ付親族組合相談ノ上書面ノ地所來ル申年ヨリ巳年迄中十ヶ年季ニ質地ニ相渡シ申金子只今儘ニ請取

申候處實正明白^(印)ニ御座候然ル上ハ年季中御進退被成當村名寄帳
 ノ表貴殿御名前ニ改御年貢諸役等御勤可被成候尤此地所ノ義外
 ニ質入等ニ相渡シ候義ハ勿論脇々ヨリ故障申物一切無御座候若万
 一ノ義有之候共加判ノ者引請貴殿ニ御苦勞等相掛申間敷候且年
 季明元金調達兼候ハ、地所流地ニ相渡可申候其節異論申間敷候
 尤元金返濟相成候ハ、無相違御返シ可被下候爲後日親類組合加
 印ノ上質地證文相渡申候處仍テ如件

明治四年未十二月日

有渡郡村松村妙組

質地主

平 左 衛 門 印

組合物代

伊 左 衛 門 印

親類惣代

勘 兵 衛 印

前書高反別當村名寄帳突合候處相違無御座候依テ與書印形仕候
 如件

組頭

政 右 衛 門 印

名主

庄 右 衛 門 印

同村

金右衛門殿

讓渡申田地ノ事

一久能寺領大橋ト申所高三石八斗三升六合六勺^(印)

淺場ト申所高壹石貳斗八升四合貳勺^(印)

二口^(印)高五石壹斗貳升八勺

此代金拾三兩三分者

新小判也

右者當申ノ御年貢ニ指詰リ金子只今儘ニ請取御藏へ上納皆濟仕候處實正ニ御座候此田地永讓リ渡申候^(印)〔分明ナ〕ハ其元ノ名田ニ被成御年貢諸役等御勤可被成候爲其讓リ手形請人仍テ如件

享保十四年

田地讓主

酉三月日

軍

次印

請人

忠次郎印

名主

三左衛門印

組合

半左衛門印

同斷

唯右衛門印

原村

三郎兵衛殿

〔外 享保九年極月附明治二年巳正月附 三通畧ス 明治三年午五月附賣渡証書〕

右ノ外舊朱印地村吏等連印セシ田地賣買証書數通之レアルノミナラス其都度貢納帳ノ表モ其年ノ現持主ニ更改シ其名前ノ者ヨリ年貢取立テ寺領名主ナル者貢納帳所持致シ該地村入用等モ持主ヨリ差出シ來リ右ハ原告人共於テモ自然年貢納人ノ變換スルヲ以テ從前賣買セシハ承認セシト思惟セリ旁明治六年中地券調トシテ出

役アリシ静岡縣官員伯耆權中屬へ稟請シ作人名前ニ可認ノ達ヲ受ケ且明治七年二月中ト覺へ同縣廳へモ左ノ伺書差出セシ處

元淺間領ノ儀ニ付奉伺候書付

一舊草高貳百貳拾五石七斗

有渡郡 村松村

右淺間領ノ義從前御檢地帳表夫々所持人名前有之候故歟舊來ヨリ賣買仕來候義ハ元領主久能岩雄始メ其外共貢米取立帳表紙何領年貢取立帳ト書現有之且米取立定日ニハ村役人立會ノ上俵拵等二重皮ニ仕立候得共先般上地被仰出候節右久能岩雄其外トモ村方へ聊相談無之自己ノ取計ヲ以散田米ト書上候ニ付追々不都合ニ相成只今ニ至リ可仕様無御座一同歎ク敷義ニ御座候ニ付去十月實地御檢査ノ節諸書類差上御調中ニハ御座候得共前顯ノ次第御賢察被成下何卒地券証御下ケ渡被成下候様奉願上候處尙今

般御尋ノ次第モ御座候間此段御伺奉申上候也

副戸長

- 望 月 清 吉印
- 同 加 藤 次 平印
- 同 大 瀧 勘 四郎印
- 同 池 田 軍 作印
- 戸長 天 野 雄 平印

静岡縣權令大迫貞清殿

書面之趣聞届候條銘々所持地ト可相心得地券ノ儀者迢テ可相渡候事

地券証御下願

有渡郡村松村元淺間領朱印地ノ義是迄百姓持來貢納ノ義モ直納

罷在候ニ付地券証御下ケ渡可相成段兼テ奉承知罷在候得共今以御渡不相成一同心配仕候間何卒御賢察被爲在安堵仕候様地券証御下渡被成下度此段奉願上候也

第四大區二小區有渡

那村松村

小前惣代

明治七年六月十七日

稻村庄右衛門印

副戸長

池田平吉印

静岡縣權令大迫貞清殿

追而可下渡事

右ノ如ク指令有之タルニ依リ原告人共名前ヲ書加ヘス各作人ノ所

持地トシ地券未渡小前帳ヲ該廳へ進呈シタル義ニ有之然レハ原告人共ニ於テ前顯彼此ノ証據ヲ引用シ各坊名受地ナル者ヲ主張シ小前帳ニ名面書加ノ義ヲ可申立條理無之ト思考ス

判文

被告人〔望月清吉外一名〕ニ於テ原告人〔大橋毅外二名〕陳述スル處ノ証據ハ久能寺舊朱印地上地前ニ在テハ總テ同寺一山ニテ進退シ諸帳簿モ久能寺一山ニ保存スルヲ以寺院並百姓名受等ノ次第ハ辨知セサル義ニテ唯各坊ノ觸達ニ隨ヒ年々貢納セシ仕來ナリ而シテ該地ハ百姓共勝手ニ賣買シ其節々貢納帳ノ名前ヲ更改シ其者ノ名前ヲ以テ各坊ニ納タル者ナレハ寺院ニ於テ之ヲ承認スル筈ニ有之且舊地頭ニ對シ散田米不差出義相分リ加之右賣買証書ニハ舊朱印地村吏ニ於テ連印シ又明治六年静岡縣出張官員ヨリノ達ノ旨モアリタ

ル趣等云々申立ルト雖モ抑該朱印地ニ於ケル當初各坊及ヒ百姓持地ノ儘ニテ貢租ノミ寄附セシモノニ相見ヘ乃チ縣廳并原被告人ニテ俱ニ正實ト認定セシ檢地帳寫惣反別ノ内ニ各坊及ヒ百姓銘々ノ名受地ヲ掲載シタル而已ナラス被告人於テ現ニ上地ノ後明治四年正月與津宿人馬仕埋割當金ノコニ係リ自カラ地頭永散田預リ地ナル旨申述セシ上ハ假令賣買証書等アルモ小作人而已ノ取引ニシテ舊地頭即チ當時名受者ニ於テ之レヲ認知セサルモノナレハ元來小作ヲ賣買セシ筋ニシテ土地ヲ賣買シタルモノトハ看做シ難シ是レ原告ニ於テ第七號証書〔朱印地讓渡法〕ヲ保有シアル所以ナリ然レハ審ニ舊朱印地ノ原由ヲ辨知セサルト散田米ヲ納メサルト静岡縣出張官員ノ單ニ作人名前ニ可認トノ達ニ依リ原告名前ヲ除キ現時作人ノミノ所持地ト考定スヘキ筈無之殊ニ被告人ニ於テ該朱印地ノ

地券下渡ヲ静岡縣廳ニ出願セシ書面ニ舊高貳百貳拾五石七斗ノ合計ヲ掲ケ從前御檢地帳表夫々所持人ノ名前有之故云々ト自カラ記載シテ差出セシモノナルヲ同縣廳ニ於テ書面ノ趣聞届銘々所持地ト可相心得地券ノ義ハ退テ可相渡ト指令アリシハ即チ檢地帳面名受ノ者ハ各坊并百姓共同一ノ義理ニシテ特ニ舊來百姓名受ノ地ノミヲ聞届シモノト認ムルヲ得ス右ハ原告ニ於テ同縣廳ニ出願セシ第三號書面〔檢地帳名受分引戻願書〕ノ指令ニモ各坊名受ノ分有之ハ地券相渡候節戶長ヨリ可受取旨允可セシ所以ナリ斯ル理由ナルヲ以テ被告人ニ於テ該地所チ現時作人ノ所持地トシ地券未渡小前帳ニ原告人ノ名前ヲ書加ヘサルトノ申分不相立仍テ慶長年度ノ檢地帳寫ニ開載スル各坊名受ノ内妙樂院大光坊中ノ坊名受ノ地ハ右小前帳ニ原告三名ノ名前夫々編入シ地方官ニ進達スヘキ筋ト可心得事

明治九年十月廿八日

大審院ニ於テ

原告 望月清吉外一名上告ノ要旨

第一條

東京上等裁判所ノ判文ニ縣廳并ニ原被告人ニテ俱ニ正實ト認定セシ檢地帳寫惣反別ノ内ニ各坊及ヒ百姓銘々ノ名受地ヲ掲載シ云々トアレヒ夫ノ慶長度檢地帳以後ニ於テ各村民ノ名受地タルヲ証明スルニ足ルヘキ享保度高反別貢米取立帳文政度總高覺帳年貢請取小切手等ノ現存スル上ハ先ツ是等ノ証憑ニ就キ其名受者ハ各村民ナルヤ果被告ナルヤヲ推究シ而シテ後慶長度檢地帳ニ溯リ之レカ推究ヲナサ、ルヘカラス然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ原告カ証トスル帳簿等ノ推究モナシ單ニ被告ノ証トスル慶長度檢地帳ヲ採用セラレタルハ不法ノ裁判ナリ

第二條

同判文ニ被告ニ於テ現ニ上地ノ後明治四年正月與津宿人馬仕埋割當金ノ一ニ係リ自ラ地頭永散田預リ地ナル旨申述セシ上ハ云々トアレヒ抑該朱印地ニ屬スル人民ハ寺院ヲ目シテ地頭ト爲シ寺院ニ於テハ人民ヲシテ種々ノ驅役ヲ爲サシムルカ故ニ年貢ノ外諸役高掛永ヲ拂ヒタル一無之然ルニ明治四年四月ニ至リ突然人馬仕埋金ヲ割當ラレシニ付種々苦情ヲ述ヘタル末終ニ縣廳ノ理解ヲ蒙リ各自地頭へ出金ヲ爲シタル迄ナレハ之ヲ以テ人民ノ所持スヘキ貢納地ニアラサルトノ確証ニハ立チ難カルヘシ

第三條

同判文ニ假令賣買証書アルモ小作人而已ノ取引ニシテ舊地頭即チ當時名受者ニ於テ之ヲ認知セサルモノナレハ云々トアレヒ該証書

中役人〔或ハ、法橋役或ハ名主〕ト記載アルヲ何等ノ見解ヲ下サレタル
ヤ抑此役人トハ久能寺役人法橋師ナル者ナレハ之カ承認シタル印
章アル上ハ即チ地頭寺院ノ承認ヲ經テ賣買等ヲ爲シタルモノニシ
テ決シテ小作人而已ノ取引ニアラサルナリ然ルチ東京上等裁判所
ニ於テ其事實ヲ審糺セラレズ輕易ニ判決セラレタルハ不法ノ裁判
ナリ

第四條

同判文ニ抑該朱印地ニ於ケル當初各坊及ヒ百姓持地ノ儘ニテ貢租
ノミ寄附セシモノニ相見ヘトアレハ此判定タルヤ何ノ証跡ニ據リ
タルチ知ラス之レチ原被告陳述ノ証憑ニ徵スルモ敢テ確認シ得ヘ
キモノ無シ然レハ判決ノ趣旨ヲ含味スルキハ慶長度檢地帳寫ニ據
リ斯ク看認メラレタルモノ、如シト雖モ其檢地帳タルヤ第一條ニ

述タル如ク原告ノ証トスル享保度及ヒ文政度ノ帳簿ヨリ以前ニ係
レルモノナレハ假令眞正ト看做スモ其權利幾分カ減縮シタルモノ
ト爲サ、ルチ得ス然ラハ則チ此裁判ハ臆測ニ出タルモノナルヘシ

第五條

文政二卯年十二月附質地証書ハ質置主カ所有地タルチ証スヘキモ
ノニ付東京上等裁判所審問ノ際之レチ捧呈シタルニ同裁判所ニ於
テ檢閱印モ爲サス下附セラレシハ聽斷ノ定規ニ乖クモノナリト思
考ス

明治十一年三月五日原告望月清吉外一名陳述ノ要領

一享保十五年貢米取立帳ハ上地後久能寺ヨリ村方へ渡シタルチ借
受申候

一文政三年惣高覺帳ハ古來村方ニ備へ在ルモノニ御座候

一貢米取立帳ハ今次論所ニ關スルモノナルヤ否ヤハ不相分素久能
寺院主ノ手許ニアリシモノニ御座候

一今次ノ論地ハ上告本人望月清吉千葉敬胤ノ所有地ニハ無之全ク
戸長用掛リノ職務ニ依リ上告イタシタル儀ニ御座候

被告 代人兼大橋藏人答辨ノ要領

第一條

原告ニ於テ東京上等裁判所ノ判文ニ縣廳并ニ原被告人ニテ俱ニ正
實ト認定セシ檢地帳寫惣反別ノ内ニ各坊及ヒ百姓銘々ノ名受地ヲ
掲載シ云々トアルヲ不法ナリトシ云々陳述セリ然レモ原告証トス
ル享保度高反別貢米取立帳ハ元來院主坊ニ關スルモノニシテ被告
妙樂院大光坊中ノ坊ノ名受地即本訴ノ論地ニ對スル証トナスニ足
ラズ又文政度總高覺帳ノ如キハ村民政吉ナル者所持セシモノニテ

帳簿ヲ取扱フヘキ權アル久能寺ノ所持セシモノニ非サルヲ以テ正
實ナル証憑トハ認メ難シ又原告人等カ年貢受取小切手ヲ以テ村民
持地ノ証ト爲スノ意タルヤ蓋シ所有主ニ非ラサル小作人ニシテ年
貢ノ稱呼ヲ有スル所以ハ之レナキトノコトナルヘシ然レモ此ノ稱呼
アルヤ被告舊三个坊ハ當時ノ領主ト地主トノ權ヲ兼有セシ者ナル
カ故ナリ又其百姓ニ於ケルモ地脇ト唱ヘ被告舊三个坊譜代ノ家來
同様ニシテ諸役ニ使用スル爲メ扶持トシテ其所有地ノ地租ヲ與ヘ
タル者ナレモ些少ナルヲ以テ其所有地ヲ小作セシメ小作米ヲハ免
除セシモノナリ是レ小作人ニシテ小作ノ稱呼ナク貢米ノ稱呼アル
原因ナリ將タ右貢米ノ受取書ヲ地主ヨリ渡サスシテ名主ヨリ渡セ
シハ明治三年十二月太政官御布告但書ニ地所ニ關係ノ事務ハ村役
人差圖可致事トアルニ依リ名主ヲシテ年貢取立方致サセタルマテ

ニテ被告從來ノ權利ニ於テハ毫モ妨ケナシ而シテ被告ノ証憑ニ於ケル近クハ明治及ヒ文久年度ニ徴スルニ別冊証書第二号及第一号第四号第六号ノ如ク又遠クハ慶長年度ノ檢地帳ニ被告舊三个坊ノ名受地タルノ明記アリ且被告ヨリ原告へ相渡シタル明治三年貢租取立帳ハ原告カ証トスル享保度帳簿ト同種類ニシテ其帳簿ニハ被告名受地ニ限り朱書ニテ手作ト畧記セリ右等ノ書類ヲ以テ被告ノ私有地タリシハ判然タリ

第二條

原告ノ陳述ヲ要スルニ被告呈供セシ第二号証與津宿人馬仕埋割當金ヲ以テハ被告ノ地主タルヲ証明シ難シトノ意ナルヘシト雖モ朱印地上地後ハ從前ノ如ク諸役免除相成ラサル趣キヲ以テ其地主へ新ニ賦課セラレタルモノナルヲ村民等ハ苦情ヲ唱へ朱印地惣高ヲ

モ悉皆地頭所有地ナリト迄申立タレトモ被告ニ於テハ正實ニ總高ノ内九拾石壹斗貳升七合九勺ノミ所有地ナル旨申立タル末各自其負擔スヘキ分丈ケ出金セシモノナレハ被告ノ地主タリシ確證タルヘシ

第三條

原告ニ於テ賣買證書ニ或ハ役人或ハ法橋或ハ名主ト記載シアルヲ以テ云々陳述セリ然レトモ從前朱印地ノ事務ハ地頭タル久能寺一山ニテ年預役ナル者ヲ設ケ之レヲノ管理セシメ來リタリ則チ原告カ東京上等裁判所ニ於テモ被告第二號証ニ年預役相立高掛リ等云々又該朱印ハ往古ヨリ久能寺一山ニテ進退シ諸帳簿モ總テ同寺ニ保存シ云々ト陳述セシヲ以テモ土地ニ關スル事務ハ役人法橋名主等ノ關知シ得ヘキモノニ非カルハ知ルヘキナリ且被告第七號証ノ如

ク其賣買チナスヘカテサリシハ名主等ニ於テモ素ヨリ承知セシ
 ナリ況ンヤ地頭ニ於テハ曾テ賣買セシ之レナシ最モ從前朱印地
 總高ノ内九拾石餘ノミ寺院ノ名受地ニシテ其餘ハ百姓名受地タ
 ハ今日ヨリ之レヲ見レハ或ハ當時自己ノ名受地ヲ相對密賣セシ
 ナキニ非スト雖モ原告カ東京上等裁判所ニ於テ上地以前ハ地頭散
 田ト心得云々ト陳述セシヲ見レハタトヘ之ヲ賣買セシトスルモ其
 小作ヲ賣買セシモノナルヘシ故ニ右賣買證書アルモ村民所有地ニ
 關シタルマテニテ本訴ノ論所ニ對シテハ其効ナカルヘシ

第四條

原告ニ於テ東京上等裁判所判文ニ抑該朱印地ニ於ケル當初各坊及
 ヒ百姓持地ノ儘ニテ貢租ノミ寄附セシモノニ相見ヘトアルヲ云々
 陳述スレモ慶長度檢地帳ニ各自ノ名受地タルヲ記載シアルヲ見レ

ハ貢租作徳共ニ一切寄附セシモノトハ自ラ別アリテ檢地帳名受ノ
 分ハ朱印地ト成リタル以前ヨリ各坊ノ所持セシヲ其儘朱印地ト爲
 シ貢租ノミ寄附セシモノト確認セサルヲ得ス若之レヲ貢租ノミ寄
 附セラレシモノニ非ストセハ原被告ニ於テモ其私有地タリシト爭
 訟スル能ハサルヘシ

第五條

原告陳述セル如ク果シテ文政二卯年十二月附質地證書ヲ東京上等
 裁判所ニ於テ檢印セラレサリシヤ否ハ被告ニ於テ與リ知ラサル
 ナルヲ以テ此ニ答辨セス

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 享保度高反別貢米取立帳年貢請取書文化度惣高覺帳ノ証據
 ヲ採用セス慶長度ノ檢地帳ニ依妙樂院大光坊中ノ坊ノ名受地ト

判決セシハ不法ナリトノ事上告要旨第一條

第二 興津宿人馬仕埋金一件ノ書面ハ妙樂院等ノ所有地タル証ト爲スヲ得ヘカラストノ事上告要旨第二條

第三 久能寺領ノ内土地賣買ノ証書ヲ小作賣買ノ証書ナリト判決シタルハ不法ナリトノ事上告要旨第三條

第四 判文第四條ニ貢租ノミ寄附セシモノト相見ヘトアルハ憶測ノ裁判ナリトノ事上告要旨第四條

第五 文政三年十二月附ノ質地証書ニ檢印セサリシトノ事上告要旨第五條

辨明

第一條

久能寺ニ保存セシ享保十五年高反別貢米取立帳文化三年惣高覺帳

及ヒ年貢受取書等ヲ證トシ之レヲ以テ慶長十四年ノ檢地帳ニ記載シアル妙樂院及ヒ二个坊名受テノ証據ヲ取消スヲ得サルモノトス如何トナレハ妙樂院等ノ名受地ハ久能寺領ノ内ナルヲ以テ久能寺ヘ貢租ヲ取立又受取書ヲ出スハ當然ナレハナリ文政三年惣高覺帳ニ妙樂院等ノ名前ヲ記セスト雖モ元來此帳簿ハ村方限リノモノニテ妙樂院等ノ認許セシモノニ非ル上ハ是又檢地帳名受ノ証據ヲ取消スニ足ラサルモノトス依テ東京上裁判所カ慶長度ノ檢地帳ニ依リ妙樂院ノ名受地タリト判決セシハ相當ノ裁判ナリトス

第二條

宿驛人馬仕埋金ハ各地主ノ擔當スヘキモノニテ領主ニ於テハ毫モ關係ナキモノトス若シ妙樂院等ハ貢租ノミヲ所有セシモノナラハ上地前ト雖モ人馬仕埋金ヲ辨出スルノ責ナシ況ヤ明治三年上地也

シ以後ニ於テヤ然ルヲ明治四年興津宿人馬仕埋金割賦ノ際村方ニ於テハ地頭散田預リ地ナリト云テ以テ出金セス各坊ニ於テ之ヲ負擔セシハ即チ地主タルノ確證ナリトス又縣廳ノ理解ニ依リ地頭へ出金セシ旨申立ルト雖モ其出金ハ地主へ對シ助力セシ筋ニテ興津宿へ對シ人馬仕埋金ヲ辨出セシ筋ニ非ス依テ東京上等裁判所カ興津宿人馬仕埋金ヲ妙樂院等ニ負擔セシハ地主タルノ一証ナリト判決セシハ相當ノ裁判ナリトス

第三條

久能寺朱印地ノ内賣買シタル證書アル旨申立ルト雖モ右ハ明治五年二月第五十號布告地所賣買差許サレタル以前ノ證書ナルヲ以テ賣買ノ證據ト爲スチ得ス故ニ東京上等裁判所ニ於テ假令賣買シタル證書アリトモ小作ノ賣買ト判定シタルノ至當ノ判定ナリトス殊

ニ千葉敬胤等カ東京上等裁判所へ提供シタル證書ハ妙樂院以下二ヶ坊ノ名受地ヲ賣買シタル證ナキニヨリ三ヶ坊へ對シテハ効シナキモノトス

第四條

判文第四條ニ貢租ノ寄附セシモノト相見ヘトアルハ憶測ノ裁判ト爲スチ得ス如何トナレハ被告人答辨ノ如ク若シ貢租ノ寄附セシモノニ非スシテ土地ニテ寄附セシモノナラハ原被共所有ヲ爭フヘキ理由ナケレハナリ

第五條

凡原被告人訴訟ニ付要用トスル証書ハ訴答文例ニ從ヒ其寫ヲ裁判所ニ差出サ、ルヘカラス裁判官他日訟庭ニ於テ其本書ヲ点檢シタル上ハ之レニ檢印スルヲ定規トス然ルニ原告人ハ曾テ其寫ヲ出サ

又控訴狀及ヒ審問口供中彼文政三年質地證書ノ一ニ論及セシ事
アルヲ見ス依テ右ノ証書ヲ東京上等裁判所へ差出セシヤ否之ヲ
審査スルニ由ナキモノトス

判決

右條々ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナ
キニ因リ上告狀却下スル者也

第九拾五號

○耕地養水差故障難澁上告ノ判文明治十年六月十三日上告
明治十一年六月十四日申渡

岡山縣備中國後月郡東江

原村惣代

原告

田中正人

渡邊富太郎

岡山縣備中國小田郡走出

村惣代

被告

名越平八

同縣同國同郡甲弩村惣代

同

難波泰慈

大坂上等裁判所ノ審判

耕地養水場故障難澁ノ控訴遂審問處

原告〔甲弩走出〕村惣代難波泰慈外一人ニ於テハ別紙繪圖面ノ通小田川

ノ水上木ノ子村井堰ヨリ宇ウコウ下走出甲弩兩村ノ井堰迄ヲ原

告〔甲弩走出〕兩村ノ井堰内ト唱ヘ常々之レカ流水ヲ以テ原告〔甲弩走出〕兩村

ノ耕地ヲ養ヒ旱魃ニテ水ニ乏キ時ハ第一號證書即チ寛政度内濟證

文ノ但シ書ニ水筋瀬堀ノ義ハ是迄仕來ノ通差支無之候事ト之レア

ル明文ニ據リ右井堰内ノ水筋ヲ瀬堀シテ原告〔甲弩〕走出〕兩村ノ耕地へ
 疏通シ來リシヲ以テ明治八年八月廿三日旱魃ノ爲メ右仕來リニ據
 リテ原告〔甲弩〕走出〕兩村ヨリ人夫ヲ出シ右井堰内ノ水筋ヲ瀬堀セシ處
 被告〔東江〕村ニ於テ之レヲ妨タリ仍テ此旨舊小田縣廳へ訴出タル
 處森下少屬外二人實地檢査ノ爲メ出張セラレ字三ツ榎カ淵ヲ瀬堀
 リシテ原告〔甲弩〕走出〕村へ其水ヲ流スヘキ臨時處分ヲ受ケ讒ニ一時ノ
 旱魃ハ防キシナレト到底如此被告〔東江〕村ヨリ妨ケラレテハ原告
 〔甲弩〕走出〕村ノ損害甚カラサルニツキ同年十一月八日更ニ舊小田縣裁
 判所へ耕地養水故障難澁ノ訴ヲナシタリ右審問中同廳ハ岡山縣廳
 ニ合併セラレタルニ付原被告共爰ニ移サレ實地檢査ノ上遂ニ明治九
 年九月二十六日控訴狀ニ掲載セシ裁判書ノ如ク申渡サレタリ則其
 不服ナル趣旨ハ第三號證書即チ寛政度内濟證文中但書ニ〔水筋瀬堀

ノ儀ハ是迄仕來ノ通差支無之候事トアレハ原告〔甲弩〕走出〕村ニ於テハ此
 川ノ水筋ヲ瀬堀スルハ固ヨリ原告〔甲弩〕走出〕村ノ權内ナルニ溜水ヲ堀下
 ケ引落スヲ瀬堀ト云可ラス被告〔東江〕原〕辨駁ノ如ク流水ノ妨ケトナル
 者ヲ除クヲ瀬堀ト云テ以テ至當ナリトスト申渡サレ又〔川筋瀬堀ノ
 義ハ疏通スルニ止リ云々〕ト申渡サレシ事ニテ則水筋ト川筋トヲ誤
 認セラレタルモノト云ヘシ右第一號證書ニ據リ該訴井堰内ノ水筋
 ヲ瀬堀スルハ原告〔甲弩〕走出〕村ノ權内ニアル事勿論ニシテ
 本文寛政度内濟證文ノ寫左ノ如シ

第一號

奉差上出入内濟證文

當御代官所備中國小田郡走出村并拓植又左衛門様御代官所同國
 同郡甲弩村ヨリ當御代官所同國後月郡東江原へ相係リ御訴訟申

上候ハ走出材甲弩村用水井堰ノ義ハ後月郡木之子村地内ニ有之
 同村井堰下ヲヨリ木之子村東江原村地内ニ水流走出甲弩兩村ノ
 井堰迄ノ分前々ヨリ故障無御座用水引取來候處當六月右井堰内
 宇ユウカウ上ニ東江原村ヨリ新規ニ搔床仕水搔上申候左候テハ
 兩村田場及旱損候者歴然ノ義ニ候間東江原村役人ニ相斷候處承
 知不仕押テ水搔取リ申候捨置候テハ用水上リ不申必至ニ難儀仕
 候間御見分ハ上東江原村ニ水搔取候義急度御差留被下度旨訴狀
 差上候勿論甲弩村ヨリモ前書同様倉敷御役所ニ訴狀差上候旨ニ
 テ御双方御役人様御立會御見分ノ上相手東江原村御尋御座候處
 同村ヨリ答上候ハ走出甲弩兩村ノ井堰用水ヲ東江原村ニテ搔取
 候儀ハ無御座字ソノ堤外ニ古田ノ場所御座候故右ノ場所溜リ
 水是迄搔取候義ニ付當年モ水搔取リ候義ニ御座候殊更古井堰上

ミノ儀ハ東江原村木之子村兩村ノ地内ニテ右瀬堀ノ義ニ付テハ
 是迄度々走出甲弩兩村ト木ノ子村ト申争ヒ等モ出來候場所ニ御
 座候得共東江原村ノ義ハ是迄差障リモ無御座候處右躰申立候段
 難心得旨申上之候ニ付於右場所段々御利解被仰付候得共難相濟
 ニ付猶又双方共當御役所ニ被召出再應御利解被仰聞候内神代村
 庄屋周兵衛北山村庄屋善藏并伏見屋定兵衛ヨリ双方ニ異見差加
 ニ左ノ通内濟仕候
 一右論所ノ義訴訟方ヨリ者ユウカウ之上ニト申相手方ヨリ者ソ
 ノ堤外ト申所ニ有之候溜リ水ノ義此度双方及爭論候處取扱ノ
 上已後溜リ水等東江原村ニテ水搔取リ申間敷勿論右場所兩村ニ
 リ致瀬堀候義用捨可仕候事
 但水筋瀬堀ノ義ハ是迄仕來ノ通差支無之候事

右ノ通一同和談得心ノ上内濟仕處相違無御座候然ル上ハ已後此
義ニ付出入个間敷義申上間敷候依之双方并ニ取扱人連印濟口證
文差上申處如件

當御代官所

備中國小田郡走出村

寬政十一年

庄屋 伊右衛門印

未十月

同 民 藏印

年寄 嘉 七印

同 平 兵 衛印

同 桂 藏印

百姓代 市郎右衛門印

同 善 七印

拓植又左衛門御代官所

同國同郡甲弩村

庄屋 善 八印

年寄 新 兵 衛印

同 藤 三 郎印

同 伊 右 衛 門印

百姓惣代

茂 右 衛 門印

百姓代 仲 右 衛 門印

當御代官所

同國後月郡東江原村

庄屋 茂 左 衛 門印

同 和右衛門印

庄屋代年寄

惣右衛門印

同 定次郎印

年寄 久藏印

百姓代 儀右衛門印

同 新兵衛印

同 吉右衛門印

同 小右衛門印

小堀内記知行所

同村庄屋

六左衛門印

百姓代 清兵衛印

神代村庄屋

周兵衛印

北山村庄屋

取扱人 善藏印

笠岡村伏見屋

定兵衛印

早川八郎左衛門様

御役所

前書之通内濟仕候ニ付御役所へ差上候内濟証文寫双方へ爲取替
無故障相濟候ニ付私共奥印イタシ相渡候以上

取扱人 周兵衛印

同 善 藏印
同 定 兵 衛印

第二號証書中第三項ノ〔先年ノ切レ口ヨリ水漏通リ候様相成候テハ
走出甲弩井堰内之養水不足仕候義ニ付云々〕ノ明文ニ據ルモ右井堰
内ノ水ハ原告〔甲弩〕村ノ費用ニ充ツル事判然タリ又番外證據物即チ
木ノ子村ニ係ル享保及寛政年度ノ内濟書及裁判書ニ於ルカ如ク右
井堰内ノ水ハ木ノ子村ニ於テモ之レヲ費用スルノ權ナシ然ラハ〔東
原〕村ニ於テモ之レト同様右井堰内ノ水ヲ費用スルノ權利アル事ナ
シ又被告〔東江〕村ニ於テ右井堰内ノ淵ハ四个所共之レカ地券証ヲ示
シテ田中元七外數十人ノ所有地ナリシト申立ルモ右場所ハ畑地ニ
テアリシ事ナク別紙繪圖面ノ通り右ハ四个所共竹藪ニテ此場所ハ
往古ヨリ水刳ノ設ケアル場所ナリ即明治四年六月ノ爲取替熟談規

定証文中ニ〔右兩村井堰内ニ付水刳破損取繕方ニテ東江原村者往還
根元へ可押流水勢ヲ妨右兩村ハ川瀬不附替水行宜敷相成三个村爲
筋之普請ト相考云々〕トアル場所ハ字三ツ榎ニテ川瀬附カハラスト
アルニ付被告〔東江〕村ノ申立ルカ如ク右淵ハ四个所共川欠ノ爲メ畑地
ノ變シテ淵トナリシモノニアラサル明証ナリ蓋シ本訴井堰内ノ川
傍へ被告〔東江〕村ニ於テ數個ノ井戸ヲ設ケシニ付之レヲ埋メント本
訴ニ附帶シテ訴へシナレモ右ハ別段契約書ノアルニアラス畢竟本
訴ニ附帶シテ訴へシモノニ止レハ控訴狀ニ故サラ之レヲ差除キシ
ナリ右申述ルカ如クナレハ本訴井堰内ハ原告〔甲弩〕村ニ於テ水筋ヲ
瀬堀スルモ原告〔甲弩〕村ノ權内ニアリテ被告〔東江〕村ニ於テ之レヲ妨
クルノ權利ナシト裁判受度旨請求セリ

被告〔東江〕村總代田中莊逸外一人ニ於テハ原告共ノ申立ルカ如ク本

訴井堰内ノ流水ハ水筋瀬堀リシテ其水ヲ原告〔甲弩〕村ノ耕地ニ注ク
 事固ヨリ原告〔走出〕村ノ權内ニアレモ此小田川ハ常々流水漲リテ淵
 ト瀬ト其水ニ區域アル事ナキモ旱魃ノ際ハ淵テ一滴ノ流水モアル
 事ナク別紙第廿二號繪圖面ノ通り川床ノ定限外ニ凹處四ヶ所アリ
 爰ニ僅カノ水溜溜シテ淵ヲナスアリ然レモ此淵タルノ地ハ第一號
 乃至第廿一號ノ地券證ニ於ルカ如ク田中元七外數十名ノ所有地ニ
 シテ之レカ畝歩ノ内幾分部歟漸々川欠ノ爲メ變シテ現今淵トナリ
 シモノナルニ付其所有者ニ於テ故トノ畑地ニ回復ナサシメシカ爲
 メ仍ホ租稅モ上納シアレハ全ク契約外ナルニ原告〔甲弩〕村ハ爰ニ水
 路ヲ通シテ其溜水ヲ洩サント寛政度ノ契約證書ニ據リテ之レヲ爭
 フト雖モ之レカ明文ノアルヲナケレハ原告〔甲弩〕村ニ於テ爰ニ水路
 ヲ通シテ其水ヲ費用スルノ權利アルヲナシ原告〔甲弩〕ニ於テ始審裁

判断ノ裁判ハ水筋ト川筋トヲ誤認セラレタルモノ、如ク申立ルト
 雖モ世人一般ニ川底深ク流水ノ速力緩ナルモノヲ指シテ淵或ハ水
 溜リト呼ヒ川底淺ク流水ノ速力急ナルモノヲ指シテ瀬ト呼フ習ナ
 レハ寛政度内濟證文ノ但書ニ「水筋瀬堀云々」トアルハ即チ右瀬ヲ堀
 リテ流水ノ疏通ヲ促スニ止マルモノナリ然ラハ水筋ト云モ川筋ト
 云モ其意味ニ於テ少異アルヲナケレハ原告ハ始審裁判所ノ通り右
 水ノ溜リ處ニ水路ヲ通スル事ナク川筋ヲ瀬堀シテ其流水ヲ疏通ス
 ルニ止マルモノト辨駁セリ原被告口供并証據物ニヨリテ裁判スル左
 ノ如シ

被告〔東江〕原村ニ於テ本訴井堰内四个所ノ淵ハ川床定限外田中元七外數
 十名ノ所有ニ係リ旱魃ノ際ハ河水涸レテ爰ニ僅カノ溜溜水アルモ
 之レニ水路ヲ通シテ其水ヲ原告〔甲弩〕村ノ養水トナス可キ契約ナク

レハ原告^{〔甲弩〕}走出^{〔甲弩〕}村ニ於テ爰ニ水路ヲ通スルノ權利ナシ又寛政度内濟
 證文ノ但書ニ水筋瀬堀云々トアルハ即チ川筋瀬堀シテ其流水ヲ疏
 通スルニ止マルモノト申立ルト雖モ右井堰内ノ流水ハ原被告ノ口
 供ニ據ルモ又原告^{〔甲弩〕}走出^{〔甲弩〕}提供ノ證書ニ據ルモ原告^{〔甲弩〕}走出^{〔甲弩〕}村ニ於テ費用
 可キ權利アル事判然タレハ右淵ノ地元若シ果シテ被告^{〔東江〕}原^{〔東江〕}申立
 ノ如ク川床定限外田中元七共ノ所有ニ係ルモノナレハ之レヲ固有
 ノ畑地ニ回復ナサシムヘキハ之レカ所有ノ權内ニアル可ケレト現
 今淵トナリ原告^{〔甲弩〕}走出^{〔甲弩〕}村ニ於テ費用ス可キ流水常ニ此ノ淵ヲ流通ス
 レハ該淵ハ川筋トナサ、ルヲ得ス仍テ旱魃ノ際爰ニ水路ヲ通シテ
 此水ヲ原告^{〔甲弩〕}走出^{〔甲弩〕}村ノ費用ニ充ツルモ第一号証書水筋瀬堀云々ノ明
 文ニ據リ被告^{〔東江〕}原^{〔東江〕}村ニ於テ拒ム可キモノニアラストス
 明治十年
 三月卅日
 大審院ニ於テ

原告 田中正人外一人上告ノ要旨

第一條

大坂上等裁判所ノ判文ニ曰ク仍テ旱魃ノ際爰ニ水路ヲ通シ此水ヲ
 原告村ノ費用ニ充ツルモ第一号証書水筋瀬堀云々ノ明文ニ據リ被
 告ニ於テ拒ム可キモノニ非ストアレト被告カ提供ノ第一號証書即
 チ寛政度出入内濟証文ノ本旨ト爲ス處ハ堤外溜水ノ場所へ原被双
 方共決シテ携ル間敷トノ盟約書ニテ但書タルヤ該訴訟外ノコナレ
 トモ水筋瀬堀ハ是迄仕來ノ如クスルハ差支ナシト念ノ爲メ掲載シ
 置キタル迄ナリ然ルヲ單ニ但書ノ文意ヲ推テ全水ニ引用シ第一號
 証書水筋瀬堀云々ノ明文ニ據リ被告ニ於テ拒ムヘキモノニアラス
 ト判決アリシハ最モ不當ノ裁判ナリト思考ス

第二條

判文ニ右井堰内ノ流水ハ原告ノ口供ニ據ルモ又原告提供ノ証書ニ據ルモ原告村ニ於テ費用ス可キ權利アル事判然タルハ云々トアリテ該川筋字下原井堰ヨリ上ハ木ノ子村井堰下迄一圓ヲ指シテ井堰内ト稱シ僅カノ溜水迄モ被告兩村カ費用スヘキ權利アルカ如ク見做サレタリト雖モ是何等ノ確証ニヨリテ然ルヤ勿論該川筋ノ流水丈クハ走出甲弩兩村ニテ費用スル權利ハアルトモ原告村内ノ荒地ニ溜溜ノ水迄モ爰ニ水路ヲ通シテ被告カ費用スル權利ナキヲ論テ竣タス然ルヲ前文ノ如ク判決アリシハ不當ノ裁判ナリト思考ス

第三條

今般ノ論所ナル堤外溜水アリテ淵ヲ爲ス場所ハ元來田中元七其外ノ者所有畑ニテ川床定限外ナルヲ判文ニ右淵地元若シ果シテ被告申立ル如ク〔中略〕該淵ハ川筋トナサ、ルヲ得ストアルニヨレハ原告

ニ於テ田中元七等ノ所有地ナリトノ申立ハ信用シ難シト裁判アリシモノ、如クナレトモ決シテ然ラス假令此河水常ニ原告村ニ沿テ流通スルトモ該時ハ水涸テ一面ノ河原トナリ爰ニ僅ク溜水アルトモ確然タル地券証ヲ所持スル他人ノ私有地ヲ猥リニ瀬堀爲スハ最モ不當ノ所爲ト云ハサルヲ得ス然ルヲ前文ノ如ク判決アリシハ不當ノ裁判ナリト思考ス

辨明

第一條

原告ハ大坂上等裁判所カ單ニ證文但書ノ文意ヲ推テ全水ニ引用シ判決アリシハ不當ナル旨申立レモ寛政度内濟證文ニ被告ハ「ユウカウ」ノ上ト云原告ハ「ソ」ノ「堤外」ト云ニ在ル溜水ノ儀以後原告村ニテ水掻取間鋪勿論被告兩村ヨリモ瀬堀用捨可仕但水筋瀬堀ノ儀ハ差

支無之トアリテ本文ノ主意ハ專ラ論所ニ就テ溜水ハ原被双方共關涉致ス間敷ト契約シタルモノナリ然ルニ之ノ契約ヲ全水ニ引用スル時ハ不都合ナルヲ以テ故ラニ但書ニ於テ水筋瀬堀云々ト記載シタルモノナルヘシ如何トナレハ若シ被告兩村ニ於テ該川筋ヨアル溜水ハ一切瀬堀用捨スヘキモノトスレハ本文ニ右場所兩村ヨリ瀬堀用捨可仕ト個所ヲ限リ記載スヘキ謂レ無之加之但書ノ文意ニ矛盾スレハ到底本文ハ論所ニ就テ云但書ハ全水ニ就テ云々スルモノト見做サ、ルヲ得ス

第二條

原告ハ該川筋ノ流水丈ケハ被告兩村ニテ費用スル權利アルモ原告村内ニ在ル荒地ノ溜溜水迄モ爰ニ水路ヲ通シテ被告カ費用スル權利ナキヲ論テ埃スト申立レ且該川筋ノ流水ハ被告兩村ノ耕地ヘ灌

漑スル用水ナルコトハ既ニ大坂上等裁判所ニ於テ原被ノ承認供述スル所ナレハ被告兩村ニ於テ費用スヘキ權利アルハ相當ノ事ナリ然ルニ該川流水アルノ時ハ固ヨリ瀬堀ヲ要スルコトナシト雖モ旱魃ノ際水流斷絶灌漑ノ用ヲ欠クニ至テ被告兩村井堰内ノ川筋ニアル寛政度爭論地外ノ溜水ヲ瀬堀シテ其水ヲ耕地ヘ灌クハ即チ証文但書ニ雙方ノ約諾スル所ナレハ原告オイテ之カ故障ヲ唱フヘキ筋ナキモノトス

第三條

原告ハ今般ノ論所ハ田中元七其外ノ者所有畑云々ト申立レ且水勢ノ變換ニ依リ瀬ノ淵ト成リ田畑ノ川欠ト成ルハ人方ノ抗拒スヘカラサルモノニテ設令該論所ハ原告云フ如ク田中元七等所有ノ畑地ナルモ今現ニ川ト成レハ則チ川タルノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス然

ハ前條ニ辨明スルカ如キ場合ニ至リ被告カ爰ニ水路ヲ通シテ其水
ヲ引用スルモ妨ケナキモノナリ

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ
キモノトス

第九拾六號

○水理處分取消上告ノ判文明治十年五月廿二日上告
明治十一年六月十七日申渡

原告 堺縣下大和國式下郡

八尾村并新町村

同村平民

右惣代

堀内小治郎

同

同

吉川辨治郎

堺縣令

被告

稅所 篤

大阪上等裁判所ノ判文

該訴目安相糺ス處原告八尾新町兩村ト宮古村トノ間ニ於ケル新地
養水ノ分量動モスレバ爭論ヲ生セシヨリ明治七年十二月十八日規
定書ヲ雙方ヘ取換ハシ

本文規定書左ノ如シ

規定書之事

十市郡田原本村字八幡町島崎

一伏込樋

一个所

右従前八尾新町兩村限リ普請致來候處今般聊違却之末總方熟

談之上向後普請之節ハ前以宮古村へモ報告可致事

但報告ノ節宮古村ヨリ普請所へ不立越候キハ直チニ着手候

共宮古村ニ於テ異議無之筈

同所伏込樋川上東西へ

一土俵

壹俵宛

但米五斗入明キ俵之事

右者從前之通申合ノ上三個村立會宮古村人足チ以テ土俵差入

可申筈

右二個條總方熟議ノ上ハ後日此場所ニ於テ養水分割方ノ儀ニ

付新規異形ノ取計ハ勿論異存毛頭申立間鋪事

前條今般第三第四兩會議所ヨリ出張實地御見分總方承服ノ上

定規相立以往異議爲無之前三個村正副戸長連署チ以テ爲取替

申規定書依テ如件

第四大區十小區式下

郡八尾村

副戸長

松本幸四郎印

明治七年十二月十八日

〔以下四名畧ス〕

第三大區五小區式下

郡宮古村

副戸長

吉村傳治郎印

第四大區十小區式下

〔以下二名畧ス〕

郡新町村

副戸長

竹村莊治郎印

〔以下二名畧ス〕

第三大區五小區

戸長

中村五郎印

第四大區十小區

戸長

齋藤壽試印

前書定規之通確守可致依令加印候事

第三大區副區長

林

樸印

第四大區副區長

瀧口歸一印

然ルニ明治八年七月十五日宮古村ヨリ原告兩村ヲ相手取突然分水ノ儀ヲ舊奈良縣へ出訴シ審問中同縣ヲ廢セラレ堺縣民事課へ引繼キ相成同所ニ於テ審理ノ末今般争フ處ノ土俵堅横差入ル、云々ニ付證據之ナキ旨ニテ明治九年六月十四日訴狀却下セラレタリ然ル處其翌十五日宮古村惣代ノ名義ヲ以テ片山空平ナル者堺縣へ分水ノ儀ニ付上申書差出セシ趣ニテ
本文上申書左ノ如シ

上申書

大和國第三大區五小

區式下郡宮古村

原告惣代

片山 奎 平

一原告宮古村ヨリ被告同郡八尾新町村ノ内常盤町方へ相係ル用水ノ儀ニ付急歎訴事件舊奈良縣廳ニ於テ種々御審理ヲ蒙リ候處右御審理何レノ係官ニ於テモ中止ニテ數員ノ係官ニ轉替シ其末舊奈良縣權大属森脇惟一殿御係ニ相成候處被告村申分難相立候ニ付不日速ニ裁決可致旨右森脇殿ヨリ告示ニ相成候ニ付御裁決相待居候處豈圖ノヤ右縣ハ當御縣へ合併ニ相成候故不得止差扣罷在候得共何ノ御沙汰無之ニ付先般森脇殿へ否爲伺出頭仕候處此事件書類當御縣へ引渡濟ニ相成候間當御縣廳ニ於テ屹度裁決ニ可相成候旨告示ニ相成候ニ付乃チ當御縣へ

出頭仕候處民事御係金澤殿ニテ種々御審理ノ末別紙御達書付添原告宮古村ヨリ差出置候處ノ願書御下渡ニ相成候尤右御達書并ニ願書等ヲ以テ當御課へ早々出頭可仕旨右金澤殿ヨリ被仰付候ニ付仍テ夫々書類寫不殘奉差上候故即今用水必用寸時難捨置際ニ押迫リ居候間否急速御沙汰可有之様只管奉悃願度因テ此段上申仕候以上

右

明治九年六月十五日

堺縣令稅所篤殿

片山 奎 平印

明治九年十一月九日養水分量ノ處分書ヲ八尾新町兩村及宮古村へ下付セラレタリ
 本文養水分量處分書左ノ如シ

大和國式下郡

八尾村

新町村

其村方養水寺川筋支流字島崎ニ於テ宮古村ト分水ノ場所水論不
絶ニ付別紙公書上及ヒ雙方處持ノ証書ニ照シ中古以來土俵ヲ以
テ致分水候ヲ相廢シ左ノ規則書ノ通石造改築申付候條自今此規
則ニ據リ双方分水可致事

分水規則 附改築雛形圖一枚添

大和國式下郡寺川筋支流字島崎舊字大ニ於テ今般更ニ凹字形石
板ヲ以テ養水ヲ東西ニ分量スル左ノ如シ

養水十分ノ二ヲ八尾村新町村へ引取十分ノ八ヲ宮古村ト八尾
新町村兩村へ引取可申事

第二條右分水場所今般石造ニ改築スル經費ハ東川筋ノ分ハ八尾
村新町村兩村限リニテ相償ヒ西川筋ノ經費ハ宮古村ト八尾村新
町村兩村ト折半シテ可相償事

第三條右字島崎東川筋西川筋共分水場所修繕ノ節ハ明治九年太
政官第三百三十號ノ公布ヲ遵守シ宮古村八尾村新町村各立會可取
計事

但工費割合ハ第二條ニ倣フ

第四條自今後寺川筋ヨリ土砂流出シテ自然凹字形石板ヲ埋沒ス
ルニ至ラハ第三條ノ通双方立會ノ上該石板ヲシテ養水ヲ分量ス
ルニ適宜ナラシメ不平ナカラノコトヲ要スヘシ

明治九年十一月九日 堺縣 印

抑該上申書ヲ閱スルニ片山奎平ノ肩書ニ原告惣代ノ文字ヲ記載セ

リ凡ソ原告ト唱フル者ハ詞訟ニ限ル名証ニシテ原告者アレハ隨テ被告ノ名ヲ帶フル者ナカルヘカラス左スレハ行政上ニ於テ如此處分相成タルハ縣令ノ權限ヲ超ヘタルモノニ之アリ且其分水ノ處分ナルヤ利害得失ヲ酌量セス原告兩村ヘ流下スル水ハ從來ヨリ一分五厘程相減シ迎モ田地灌漑ノ用ニ供シ難ク旁以縣令ノ處分ハ不服ニ付取消ノ裁判ヲ受ケ度旨申立ルト雖モ宮古村惣代片山空平ヨリ堺縣ヘ差出シタル上申書ニ原告ノ文字アルモ其文体宮古村ニ於テ詞訟ヲ爲シタル趣意ニ之レナク且原告八尾新町兩村ト宮古村ト爭フ處ノ分水ニ於ケル漠然タル一ノ規定書アルノミニテ外ニ確手タル証據無之ニ付行政上ニ於テ縣令ノ其處分ヲ爲シタルハ權外ノ處分ナリト見認メカタシ仍テ訴狀却下候事
 明治十年三月六日
 大審院ニ於テ

原告 八尾村外一个村惣代堀内小治郎外一名上告ノ要旨

人民相互ニ結ヒタル正シキ契約ハ雙方ノ承諾アルニ非サレハ決シテ他ヨリ其契約ヲ更改スルヲ得ヘカラス官府ト雖モ亦然リ今ヤ堺縣令ニ於テハ宮古村ト吾兩村間ニ交換シアル明治七年十二月十八日附ノ規定書ヲ閣キ單ニ該養水分量處分ノ命令ヲ下サレタルハ所謂行政權外ノ命令ナルヘシ然ルチ大阪上等裁判所ニ於テハ行政上ニ於テ縣令ノ其處分ヲ爲シタルハ權外ノ處分ナリト見認メカタシト判定セラレタルハ不當ノ裁判ナリト思考ス因テ原裁判ノ破毀アラントテ請フ

辨明

凡ソ人民一己一人ノ私益私利ニ關スル事故ニアラスシテ一般共同ノ公益公利ニ關スル事故ニ就テハ其細大ナ問ハス政府ニテ之レヲ

管理シ之レテ保護スルハ行政權内當然ノ責任ナリトスルハ普通ノ本義トス然リ而シテ本案原告八尾村外二个村ノ養水ノ事故ノ如キハ即チ一般ノ公益公利ニ關スルノ一事故ナレハ假令正真ナル私約ヲナシアルモ其契約ノ精密ナラサル等ニ原キ互ニ紛紜ヲ醸シ公益ヲ害スルニ當テハ管轄廳之レカ事理ヲ審究シテ至當適宜ノ處分ヲ爲スハ行政上止テ得サルノ責任ナリ然レハ原告八尾村外一个村ト宮古村ト明治七年十二月十八日附ノ規定ヲ結約シアルモ文詞精密ナラサルカ爲メ爭論不絶ニ由テ被告堺縣廳ニテ其事理ヲ調理シテ明治九年十一月九日ニ右養水分量ノ處分ヲ爲シタルハ即チ行政上至當ノ處分ナリ於是テ大坂上等裁判所カ八尾新町兩村ト宮古村ト爭フ所ノ分水ニ於ケル漠然タル一ノ規定書アルノミニテ外ニ確乎タル証據無之ニ付行政上ニ於テ縣令ノ其處分ヲ爲シタルハ權外ノ

處分ナリト見認メカダシト裁判シタルハ不當ノ裁判ナリト云フヘカラス

判決

前條ノ次第ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スルノ理由ナキモノトス

第九拾七號

○地所爭論一件上告ノ判文明治十年六月二日上告
 明治十一年六月廿一日申渡
 長野縣南第十二大區八
 小區信濃國安曇郡中土
 村平民

原告

相澤和市

東京第一大區十一小區

神田小柳町廿四番地寄
留埴玉縣平民

右代人

並 木 求 采

長野縣南第十二大區八

小區信濃國安曇郡中土

村平民

被告

柴田吉三郎

山本庄九郎

東京上等裁判所判文

地所爭論ノ一件舊筑摩縣廳ノ裁判不服ノ趣ヲ以テ及控訴次第遂審
理處

原告柴田吉三郎外一人申立ル旨趣ハ論地字ヲツタテ十七筆原告山

本庄九郎柴田吉三郎所有地ナルコトハ慶安度切替檢地帳寫
本文慶安度檢地帳拔書寫左ノ如シ

記

字ヲツタテ舊畝

壹反步

庄九郎

四反步

同

五反步

久三郎

壹反貳畝步

同

六畝貳拾八步

庄九郎

五畝步

同

壹反步

久三郎

壹反步

同

壹反貳拾五步

庄九郎

右ハ慶安二年當村切替畑檢地帳取調候處前書寫ノ通リ相違無之候以上

第十二大區八小區中土村

副戸長

明治九年第六月六日

横川才藏印

并ニ近村總代ノ者共証明セシ繪圖面ヲ以テ証スヘシ右檢地帳寫ニハ字ヲツタテ九筆記載有之今般地租改正ニ付右九筆ヲ前條ノ十七筆ニ分割セシナリ然ル處被告相澤久一郎外一人ニ於テ該地所ヲ字雪ノ平壹反六畝歩ノ場所ト謂ヒ爲シ被告所有地ナル旨申立レトモ元來字ヲツタテハ秣場ニシテ字雪ノ平ハ畑地ナルカ故ニ場所固ヨ

リ異ナルコト前顯繪圖面ニテ分明ナリ又前條十七筆ノ地所實地反別取調タル帳簿ヲ扱所へ差出セシ處相澤久一郎ニ於テ右帳簿ヲ反古ニセシ故現今實地反別ハ相分ラス亦被告相澤和平所持地トシテ地券願出タル四畝貳拾五歩八畝拾歩ノ二筆ハ十七筆ノ内何レニ相當スルヤ原告ニ於テハ不分明ナリ又該地所是迄無稅地ナルニ付年貢諸入費ハ少シモ差出サス將被告ノ内相澤久一郎ハ相澤茂平長男ニシテ未タ戸主ニ無之趣被告陳述セシ上ハ原告ニ於テモ被告申立ノ通リ相違無之ト信認セリ前條々ノ通リ該地所ハ原告所有地ニ相違無之處舊筑摩縣廳ニ於テ原告申分ハ無證據ノ趣ヲ以テ訴狀却下サレタルハ不服ニ付今般控訴ニ及ヒタル旨申立タリ被告相澤久一郎外一人申立ル旨趣ハ慶安度切替檢地帳寫ニ字雪ノ

六七一

平壹反步茂平ト記載有之地所チ今般地租改正ニ付字ヲツタテト改稱シタルコハ別段舊筑摩縣廳ヘ届ケ致サ、レモ副戸長横川才藏ヨリ相澤久一郎ヘ差越シタル証書ニテ判然タリ

慶安度檢地帳ノ書拔

舊畝記

宇ハシコ田

一下々畑四畝步

竿受 茂兵衛

此分糶四升

字雪ノ平

一壹反步

同人 下ヶ紙〔今爭フ地所此壹反步ニ當レリ〕

同所

一六畝步

同人

〆貳反步

字雪ノ平改正シタル保証ノ寫

証

壬申以來地券御改正ノ際舊字改正不苦ノ達シ舊役人ヨリ有之候間數ヶ所字改正仕候相違無之候也

副戸長

明治九年第六月十日

横川才藏印

相澤久一郎殿

七七一

而シテ其實地反別八反六畝四步有之ニ付夫レテ十六筆ニ分割シ其内四畝二十五步八畝十步トノ二筆ヲ相澤茂平ヨリ相澤和平ヘ分與

サレタリ然レモ未タ長野縣廳ヨリ地券証ハ下付サレヌ
又原告ニ於テ論地ハ十七筆ト云ヒ被告ニ於テハ十六筆ト云フ如斯
一筆差違有之譯ハ右十七筆ノ内相澤茂平持地ニ二筆同番号有之
付之レチ一筆ニ合併セシカ故ナリ其証據ハ明治十年三月二十一日
自分村方戸長田原七五三外兩人ヨリ自分へ差越タル証書ニテ判然
タリ

本文二筆合併證書寫左ノ如シ

記

去ル明治六年中實地取調ノ時々舊土谷村外番帳ノ内千六百五十
七番ノ處書損ニテ同番有之右ニ付無據相澤茂平持地ニテ二筆合
併致候テ村吏并地券惣代共調印仕舊筑摩縣へ帳簿上申仕候ニ相
違無之候也

長野縣南第十二大區八

小區

安曇郡中土村

戸長

明治十年二月十日

田原七五三印

副戸長

太田武八印

副戸長

横川才藏印

又該地所ハ從來無稅地ニ付年貢諸入費ハ少シモ差出サス將被告相
澤久一郎ハ相澤茂平長男ニテ未タ戸主ニ無之旨申立タリ
依テ判決如左

第一條

被告相澤久一郎ハ相澤茂平長男ニシテ未タ戸主ニ非サルヲハ被告陳述ノミナラス原告ニ於テモ其旨自認セシ上ハ戸主ノ茂平ヲ聞キ該論地ニ關係無之久一郎ハ係リ訴へ出ツヘキ權利無之事

第二條

論地ノ内被告ニ於テ相澤和平所有地ナリト云フ四畝貳拾五步八畝拾步ノ二筆ヲ除去シ其餘ノ地所ハ今般ノ被告ニ關係無之モノトス

第三條

右被告ニ於テ相澤和平所有地ナリト云フ二筆ノ地所字雪ノ平ヲ「チツタテ」ト改稱セシ旨別段舊筑摩縣廳ヘハ届ケ致サ、レハ副戸長横川才藏ヨリ相澤久一郎へ差越シタル保證書ニテ分明ナル旨被告申立レハ右横川才藏ノ保證書ニ字雪ノ平ヲ「チツタテ」ト改稱セシ「毫

モ記載無之ノミナラス他ニ証憑無之ニ付被告申分難採用依テ前顯二筆ノ地所ハ原告所持セル慶安度切替檢地帳寫ニ記載有之字「チツタテ」九筆ノ内ニシテ原告所有地ニ相違無之モノト見認メサルヲ得ス

第四條

前條々ノ通り裁決候條其旨可相心得事 明治十年四月七日

大審院ニ於テ

原告 相澤和平代人並木求采上告ノ要旨

第一條

東京上等裁判所判決文第三條中副戸長横川才藏ノ保證書ニ字雪ノ平ヲ「チツタテ」ト改稱セシ「毫モ記載無之トアレ」控訴答書第一條中舊字雪ノ平ト稱シタル場所ヲ五个所ニ區分シ其二ハ「チツタテ」其

三八柳原其四ハ「テロミ」ニ殘ル雪ノ平トモ五ヶ所ニナシタル旨陳述
シ置ケルカ如ク戸長ノ保証書中別段慶安度檢地帳ニ因ル字雪ノ平
ヲ「チツタテ」ト改正セシ旨記載無之迄ニシテ數ヶ所字改稱セシノ明
文アルニ於テハ縱令其論所ヲ適指セサルモ舊雪ノ平ヲ「チツタテ」ト
改稱シタル「ハ含蓄セル文意ナリトス然ルニ村吏横川才藏ヨリ相
澤久一郎へ差越タル保証明文中字雪ノ平ヲ「チツタテ」ト改稱セシ「
毫モ記載無之」トテ之ヲ採用セラレサリシハ不法ノ裁判ナリト思考
ス

第二條

同條中他ニ証憑無之ニ付被告〔今回〕申分採用シカタシトアレヒ去ル
明治六年地券發行ノ際山地切替畑畝反別實地取調ノ上各村ヨリ舊
筑摩縣廳へ差出シタル外番一筆限地引帳並原被立會繪圖ハ原被村

方則チ舊中谷村舊土谷村兩村ノ扣チ寫シ村吏ノ保証ヲ得テ之レチ
東京上等裁判所ニ呈供シ置タリ因テ其帳簿ノ番号字名ヲ以テ審理
アラハ論所十七筆ノ切替畑畝ハ素ヨリ原告〔今回〕所有地ニ非ラサル
「判断タル可シ然ルニ該証ニ當該判事ノ檢閱印ヲ押捺セラレナカ
ラ他ニ証憑無之」ト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第三條

同條中前顯二筆ノ地所ハ原告〔今回〕所有セル慶安度檢地帳寫ニ記載
有之字「チツタテ」九筆ノ内ニシテ原告所有地ニ相違無之モノト見認
メサルヲ得ストアレヒ該檢地帳寫九筆ヲ見ルニ其所有者ハ柴田久
三郎山本庄九郎ノ二名ニシテ控訴原告人柴田吉三郎ノ所有地一筆
タモアル「無シ假令吉三郎ト久三郎トハ同姓ナルモ素ヨリ別戸異
産ナルモノナレハ其所有權ノ移ルヘキ謂ハレアル可ラス然ルニ被

告〔今回〕ニ於テ相澤和平所有地ナリト云フニ筆ノ地所ハ原告〔今回〕所
有地ニ相違無之モノト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

明治十一年三月十九日原告代人並木求采陳述

一中谷村土谷村ノ兩村明治八年中合併シ中土村ト改稱相成候事
一論地ハ相澤茂平舊來繩受ノ所有地ニシテ是迄無稅ナリ尤明治六
年中地券受ケ願書差出置候得共今以茂平名前ハ不相改從前ノ儘ニ
有之候事

明治十一年五月三十一日原告代人並木求采陳述

一論所字「ナツタテ」ノ地内ニ開墾地アルハ原告村方ニテ切開キ候モ
ノニテ決テ被告ノ開墾ニ無之候事

被告 柴田吉三郎外一名代人柴田玉織外一名答辨ノ要旨
明治十一年五月六日

第一條

原告ニ於テ假令其場所ヲ指サスト雖モ舊雪ノ平ヲ「ナツタテ」ト改稱
シタル「ハ」兵長ノ保証文中ニ自ラ籠レリト雖モ其保証書ノ文面
タルヤ唯地租改正ノ際村内ニ字ヲ改稱セシ「ハ」有之ト迄ノ保証ニ
シテ字雪ノ平ヲ「ナツタテ」ト改稱セリト適指シタルモノニアラス且
ツ論地字「ナツタテ」ト稱スル場所ハ舊長崎耕地ニ屬シ原告ノ所謂字
雪ノ平ト稱スルハ新屋耕地ト接近シ其間岨層嶮岨ヲ隔テタレハ實
地ニ於テ接續タモスル「ハ」無シ況ンヤ隣村各人ノ保証圖アルヤ又
況ンヤ慶安二年ノ切替檢地帳ニ被告ノ所有タル「ハ」明記シアルチ
ヤ故ニ該保証書ヲ以テ字改稱ノ確証ト信認セサル而已ナラス原告
ハ地租改正ノ際本村地内ニ於テ字改稱ノ場所アルチ口實トシ之レ
ヲ押領セントスルノ策ナリト云フモ敢テ誣言ニアラサル可シ

第二條

原告ハ東京上等裁判所ニ於テ論地ノ証左トシテ外番一筆限地引帳
 並原被立會繪圖ヲ掲ケ置タリ云々ト云ト雖モ其外番一筆限地引帳
 タルヤ控訴被告人相澤久一郎カ當時地券下調總代ノ任ニ在テ擅ニ
 作為セシモノナリ其原被立會繪圖面ナリト云ヘルモ亦舊各村ノ製
 定ニ係リシ原圖ヲ閣キ等シク久一郎ノ手ニ成リシモノニシテ今般
 ノ詞訟ヲ醸生シタルヲモ專ラ之レニ原ツクモノナレハ該圖ハ勿論
 外番一筆限地引帳ヲ以テ証憑トスルニ足ラサルハ論ヲ俟タサルナ
 リ

第三條

原告ハ慶安度切替檢地帳寫九筆ヲ見ルニ其所有者ハ柴田久三郎山
 本庄九郎ノ二名ニシテ柴田吉三郎ノ所有タルヲ見ス假令同姓ナル

モ素ヨリ別戸異産ニシテ吉三郎ハ久三郎ノ子孫ニ非スト云ト雖モ
 今日ノ吉三郎ハ久三郎ノ子孫ニ非サルハ原告ノ申立ル如クナルモ
 其實兄弟ナルヲ以テ吉三郎ハ久三郎ノ代理委任ヲ受ケ而シテ吉三
 郎ヨリ長男柴田玉織へ代理ヲ委任シ東京上等裁判所へ控訴セシメ
 タリ故ニ同裁判所ハ原告（今回）被告本人ハ山本庄九郎柴田吉三郎ノ兩人
 ナリト誤認セラレタルヤモ難料ト雖モ證據書類ハ總テ久三郎庄九
 郎ト記載シアレハ畢竟他ニ吉三郎トアルハ即チ久三郎ノ誤ナリ且
 庄九郎ノ所有タルヲハ原告ニ於テモ自認スル處ナレハ則チ東京上
 等裁判所判決文ニ其名ヲ指サスシテ唯原告所有地ニ相違ナキモノ
 ト見認サルヲ得ストアルハ素ヨリ庄九郎久三郎ノ所有タルハ言チ
 俟タス然レハ久ト吉トノ誤寫マテコシテ實地ニ就テハ毫モ害ナキ
 モノナリ

明治十一年五月十一日被告代人柴田玉織森條右衛門陳述

一原告ニ於テ今回ノ争訟ニ付字名改稱云々申立候得共右ハ原告所
 有ノ雪ノ平ヲ以テ或ハ「ナツタテ」ト改稱セシ者可有之自分所有地ノ
 字「ナツタテ」ハ慶安度檢地帳以來改稱シタル「ハ無之候事」
 一原告ニ於テ原被立會繪圖面ナリト申立ル繪圖面ハ原被立會ニハ
 無之村内一同立會ニテ取扱タル繪圖ニ有之候事
 一自分父柴田吉三郎ハ柴田久三郎ノ弟ナリ依テ久三郎病氣中父吉
 三郎今回訴訟ノ事件委任受居候ニ付自分儀父ノ代人トシテ控訴イ
 タシ候尤其節久三郎ヨリ父吉三郎へ受取置候委任狀携帶不仕候事」
 一今般ノ論所へ原告方相澤茂平入會致シ候儀ハ頼談ニ應シ兼テ聞
 届置候事

明治十一年六月三日被告代人柴田玉織外一人陳述

一被告村方〔舊中谷村分〕ハ久三郎庄九郎ノ兩家ヨリ分派シ當今十一戸ニ
 相成居候事

一被告方一手限持ノ字「ナツタテ」ハ明治六年中外番一筆限地引帳調
 製ノ節六十四筆ニ取調論所字「ナツタテ」ハ十七筆ニ取調有之候事
 一字「ナツタテ」ト稱スル場所ハ有税無税共總テ道程凡二十五六町モ
 可有之候事
 一慶安度檢地帳ニ記載有之二十筆ノ地所ハ有税ニハ候得共如何程
 ツ、上納罷在候哉唯今暗記不仕候事

辨明

凡ソ裁判官ノ詞訟ヲ審斷スルハ原告被告兩造ヨリ供述スル事理ト
 證憑トヲ審理シテ之レヲ裁判スルヲ本義ナリトス然ルニ本按詞訟
 ヲ東京上等裁判所カ裁判スルニ控訴被告人ヨリ提供シタル外番一

筆限地引帳ハ本按詞訟ノ證憑タルト否トヲ審理スルコナリ且控訴原告人ノ提供シタル慶安度檢地帳寫ニ示稱スル九筆ノ地所ハ元ヨリ檢地濟竿受ノ地所ニテ有稅地ナリ然ルニ本按論所ハ無稅ノ地ナリト原被告兩造ノ申述符合シアレハ果シテ前顯慶安度檢地帳寫ニ記載有之字ヲツタテ九筆中ニ本按論地ノ包有シアル道理ナシ是レ等ノ事由ヲ審究セス論地ハ控訴原告人ノ所有地ニ相違ナシト見認メテ東京上等裁判所カ裁判ヲ爲シタルハ審聽ヲ盡サ、ルノ裁判ナリトス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ受シヘキモノナリ

第九拾八號

○中澤村分地荆藪木爭論上告ノ判文明治十年十月廿四日上告
 明治十一年六月廿七日申渡

長野縣信濃國諏訪郡原

村平民

原告

清水磯吉

鎌倉徳之丞

長野縣信濃國諏訪郡原

村平民清水友之丞代人

東京府第一大區十三

小區濱町二丁目七番

地寄留長野縣平民

同

皆川四郎

長野縣信濃國諏訪郡玉

川村泉野村兩村總代玉

川村平民

被告

伊東傳三郎

原田重右衛門

東京上等裁判所ノ判文

原告伊東傳三郎原田重右衛門訴フル要旨ハ明治七年四月七日被告
 村原ヨリ相係組板原境界爭論ヲ釀シ舊筑摩縣廳へ出訴ニ及ハレ明
 治八年十一月中草野ノ分六十个村共入會タルヘキトノ裁判ヲ受タ
 リ荆藪木ノ特別ナルヲ判然ナリ裁判官ニ於テ荆藪木ノ特別ナルヲ
 ナ認メラレタル証ハ右裁判ノ受書ニ中澤村分地ノ内荆藪木ハ被告
 十个村草野ノ分六十个村和融入會スヘキ段奉畏旨記載セシテ受領
 相成タリ

本文受書ノ寫左ノ如シ

御請書

信濃國諏訪郡第十四次

區六小區玉川村

中澤耕地

田道耕地

神之原耕地

子之神耕地

北久保耕地

菊澤耕地

穴山耕地

山田耕地

同大區五小區泉野村

中道耕地

小屋場耕地

一俎板原經界爭論ニ付本月十二日御裁判被仰渡之通中澤村分地ノ内荆藪木ハ被告十ヶ村草ノ分六十ヶ村和融入會可致段奉畏依之御請書奉差上候以上

右村總代

明治八年十一月十八日

伊東瀨左衛門印

伊東傳三郎印

原長兵衛印

中山長兵衛印

丸茂郡吉印

藤森與左衛門印

長田良兵衛印

田中伴右衛門印

筑摩縣參事兼六等判事高木惟矩殿

且該裁判狀第二條被告清水磯吉清水友之丞鎌倉德之丞ヨリ申立ル証書第二款ニ草野ノ分中澤村分地ノ内入會ニテ荆ノ儀ハ先規ヨリ中澤村分地ノ内カラセ不申云々ト有之是則從前入會ニ荆ト草トノ差別アル證ナリ而シテ被告清水磯吉清水友之丞鎌倉德之丞ノ之レヲ以テ證據トナシタルハ素ヨリ草ト荆トノ區別アルヲ認知セシモノニテ裁決ノ結局草野ノ分ト云モ右二款草野ノ分ト云ニ由來セシモノナリ然レハ該裁判ハ草藪ノ入會ノミニテ荆藪木ノ入會ニ及ホサルト思料セリ尤藪木ハ別段證書ノ見ルヘキナシト雖モ四五